

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立福島高校 サッカー部	顧問・外部指導者氏名	顧問 松浦健人・鹿又敏 外部指導者 金基洙	電話/FAX	TEL024-535-3395 FAX024-535-3397	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、「自主・自律・自立」の精神を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>(2) 各部において高い目標を設定し、その目標に向かうことで指導者と部員および部員相互の正しい人間関係を形成することを目指す。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 団体行動の中で、他人のために行動する心を身につける。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 各種大会で上位入賞を目指している。</p> <p>(2) 学業との両立を図りたいと考えている。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針および年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって学業との両立が図れるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 限られた時間での練習により、自分から積極的に動く力を身につけさせる。</p> <p>(2) 部員が自ら課題を見つけ、それを克服する力を身につけさせる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 週末についても、オーバーワークにならないように午前中のみ練習としている。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 月・火・木・金はグラウンドにて個人・チーム戦術練習</p> <p>(2) 水は走り込み。</p> <p>(3) 土は外部コーチのチーム戦術練習。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 時々指導者自身も練習に参加し、プレーの流しの中で指導する。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めの部活動保護者会において、各顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。保護者が設定されていない部については、書面にて連絡を取る。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 個人技術、チーム戦術ともに個々に指導する。</p> <p>(2) チーム戦術時はその日の目標を設定し、達成を目指す。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 部の年間計画の共有を図る。</p> <p>(2) 生徒の学校生活における生活態度や進路希望状況などの情報を共有することで、生徒の現在から将来までを見据えて指導にあたる。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介			中間考査	文化祭	期末考査 終業式	始業式		中間考査		学年末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定	Fリーグ	Fリーグ インターハイ	Fリーグ	Fリーグ	選手権	選手権	選手権	新人戦	Fリーグ			
練習試合・遠征等	練習試合	練習試合	練習試合	練習試合	練習試合	練習試合	練習試合	練習試合	練習試合	練習試合		
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	個々の技術・体力 の向上を図るとと もに、チーム戦術 の意識を伸ばす。	大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。	大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。	大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。	大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。	大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。	大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。	大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。	大会を経て得た課 題の解決へ向けた 練習。	個々の技術・体力 の向上を図るとと もに、チーム戦術 の意識を伸ばす。	個々の技術・体力 の向上を図るとと もに、チーム戦術 の意識を伸ばす。	個々の技術・体力 の向上を図るとと もに、チーム戦術 の意識を伸ばす。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立福島明成高等学校・ボクシング部	顧問・外部指導者氏名	顧問 菊池 秀公 外部講師 野宮 正城	電話/FAX	024-545-3381	Email	school@fukushimameisei-h.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して健全な身体を鍛えるとともに、他人を敬う精神を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 全国大会で優勝する。 (2) 東北大会で優勝する。 (3) 県大会、学校対抗で優勝する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) ボクシングが強くなりたいという部員が多い。ボクシングで実績を残し、大学進学をしたいと考えている部員がいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が長期・中期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とコミュニケーションを図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスの取れた成長を促すような指導展開をする。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 先手の挨拶、報告、連絡、相談のできる生徒の育成に励んでいる。 (2) 他人を思いやり、感謝の心を身につける。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 基本、日曜日は休養日としている。大会翌日は休養日としている。 (2) 怪我や病気の部員に対しては、通院や休養を指示している。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設や用具の点検を行う。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を行い、緊急時の対応へ万全の備えをする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整える。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) ロードワーク (2) シヤドウボクシング (3) 基本練習 (4) スパリングなど</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習内容を把握し、目的に合った動作ができるように声をかけながら指導をする。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度途中に顧問から部活動の活動状況や活動成績等について文書で通知する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 基礎基本を重視したトレーニング内容にする。 (2) 実践練習をふまえながら、技術の向上を図る。 (3) 柔軟を取り入れ身体をいたわる気持ちを身につけさせる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部講師と連携をとりながらそれぞれの部員の状況について情報提供をする。 (2) 外部講師から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間考査	期末考査	終業式			中間考査	期末考査	終業式		期末考査	卒業式 終業式
各種大会の予定			県高校大会 東北大会	県総体	全国大会		国体	県新人大会		東北新人大会		全国選抜大会
練習試合・遠征等		練習試合		県強化合宿	県強化合宿	県強化合宿			県強化合宿	県強化合宿	県合宿遠征	県合宿遠征
シーズン区分)	準備期	準備期	試合期	試合期	試合期	準備期	試合期	試合期	準備期	試合期	準備期	試合期
活動内容・ねらい		技術の向上を目指す。	上位入賞を目指す。	体力や技術の向上を目指す。	上位入賞を目指す。	体力や技術の向上を目指す。	上位入賞を目指す。	上位入賞を目指す。	体力や技術の向上を目指す。	体力や技術の向上を目指す。	体力や技術の向上を目指す。	体力や技術の向上を目指す。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立福島西高等学校・弓道部	顧問・外部指導者氏名	顧問：金川千佳子 外部指導者：高井幸子	電話/FAX	TEL 024-546-3391 FAX 024-539-5029	Email	kanagawa.chikako@fp05.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>活動目標</p> <p>地域指導者の活用による部活動の活性化と秋の新人戦・昇段審査に向け、競技力の向上を図る。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と、運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>指導方針</p> <p>(1) 顧問の指導で不足する技術的・精神的指導を、外部の指導者を招聘することにより補い、生徒の競技力の向上を図る。</p> <p>(2) 選手であり、指導経験が豊富な指導者と顧問が連携・協力し、弓道場の環境整備や生徒に礼法など専門的な技能を正しく身につけられるように努める。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、休日日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休業を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>指導内容</p> <p>(1) 競技の特性上、新入部員は全員初心者であるが、当該指導者の協力により、基礎から射法まで、一貫した指導計画を立て、指導を行う。</p> <p>(2) 昇段審査の練習を通して、部員全員が競技上の礼法を習得することができるようにする。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的に相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>指導方法</p> <p>(1) 全体的にメリハリのある練習を心がけ、弓道は個人指導が中心となりがちだが、アイパットを利用し、一人一人への指導を全体へと広げ、多くを学べるようにする。</p> <p>(2) 「体配」が正しくでき、息合いに合わせて安定した行射ができるよう協力し、指導していく。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の訪問日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	中間考査	期末考査	校内球技大会 終業式	公開文化祭		中間考査	期末考査	終業式		学年末考査	卒業式・修了式 歩こう会	
各種大会の予定	昇段審査 県春季大会	県年春季大会 インハイ地区大会	インハイ県大会 県総地区大会	県総県大会		市民体育祭 地区新人大会	昇段審査 県新人大会			通信記録会	地区錬成会	県錬成会	
練習試合・遠征等	月に1回、校内記録会・1日練習試合を設定	月1回校内記録会 連休中、1日練習試合を設定	月1回校内記録会	月1回校内記録会 (自校安土整備)	3年生壮行試合 3年生納射	月1回校内記録会	月1回校内記録会	月1回校内記録会	月に1回、校内記録会・1日練習試合	月に1回、校内記録会設定	月に1回、校内記録会・1日練習試合	月に1回、校内記録会・1日練習試合	
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期・充実期	充実期・試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期・充実期	
活動内容・ねらい	弓道の特性や用具の名称・扱い方を知る。「射法則」「礼記射義」暗記。射法八節の名称とその動作を覚える・徒手で安全に心がけ、相互練習。正しい射法八節で弓を引く。	射法八節の名称とその動作を覚える・紐弓を使って、形よく「会」の手応えが得られるようにする。「体配」・縦横十字の基本体型を意識して身につけた技能を活かし、的に向かって矢を放つ。	ゴム弓で射法八節の基本動作の一連の流れを確認する手の内の作り方、矢かけのつけ方、矢を番えての牽引ができるようにする。安全に心がけ、相互練習する。正しい射法八節で弓を引く。縦横十字の基本体型を意識する。	巻蕨発射を段階的に実施する。十分な会から正しい心まで、できるようになる。安全に心がけ、巻蕨失敗稽古をする。安全に心がけ、相互練習する。正しい射法八節で弓を引く。縦横十字の意識強化。	納射の方法を知る射法八節の一連の流れを反復練習する。座射で矢番えができるようになる。的前行射ができるようになる。納射の方法を理解し、習得した技能を活かし、最高の納射を行う。	安全に心がけ、相互練習する。試合を前に基本体(基本姿勢・基本動作)の確認をする。三位一体(身体・心気・弓技)を意識し行射する。	大会をとおして見えてきた各自の課題の解決に向け、相互練習する。	大会をとおして見えてきた各自の課題の解決に向け、相互練習する。	筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング・ストレッチを行う。	筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング・ストレッチを行う。	筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング・ストレッチを行う。	安全に心がけ、相互練習する。「射法八節」(足踏み〜残心までのそれぞれのチェックポイントに注意して行う。)	安全に心がけ、審査の練習をする。「体配」入退場、執り弓の姿勢、矢番え動作が流れるようスムーズにできるようにする。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立川俣高等学校・フェンシング部	顧問・外部指導者氏名	顧問：廣瀬了之・外部指導者：酒井彰子	電話/FAX	電話：024-566-2121 FAX：024-566-4138	Email	hirose.satoshi@fw81.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 運動部・文化部における部活動指導を通して、生徒の人的な成長を目指す。		各部の活動目標 (1) 全国大会での上位入賞を目標とする。 (2) 部活動を通して人的な成長を目指す。			部員のニーズや要望・意見 (1) 小学校から競技を継続している部員と高校から始めた初心者が混在しているため、クラス分けしながら指導に配慮する。		
学校全体の指導方針 (1) 学級や学年を離れて生徒が活動を組織し展開することにより、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成し、仲間や教師(顧問)と密接に触れ合う場を通して、人的な成長を育む。		各部の指導方針 (1) 年間指導計画に沿った、練習内容を主として競技技術を身につける。 (2) 部活動を通して、自主性、協調性、責任感、連帯感を身につける。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週1日を休養日とする。 (2) 適宜スポーツドクターに来院していただく。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に競技用具の安全点検を行うとともに、運動直前直後の心身の状態を把握する。 (2) 校内に体罰・いじめ等の相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) フットワーク・アームワーク・戦術・メンタルの強化を図る。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 日常の練習において、必ず顧問と外部コーチに相談できる時間を設ける。		
保護者等への説明機会 (1) 大会終了後、定期的に顧問から部活動の運営状況や活動実績等について文書や説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) フィジカルを意識したフットワーク・アームワークの強化を図る。 (2) 4つの戦術の徹底を図る。 (3) 遠征・合宿等を通して、試合に慣れさせる。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打ち合わせを行い、部員の学校生活における状況について共通理解を図る。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間考査	期末考査	終業式			中間考査		終業式		期末考査	卒業式 終業式
各種大会の予定		地区大会	県大会 東北大会	県総体	全国大会 東北総体	県外遠征	国体 地区新人大会	協会主催大会	県新人大会	協会主催大会 全国選抜予選会		全国選抜大会
練習試合・遠征等	県外遠征										県外遠征	
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期
活動内容・ねらい	県外遠征・練習試合を通して、課題解決に向けたトレーニング	上位大会に向けてのフィジカル中心のトレーニング	課題解決に向けてのトレーニング	課題解決に向けてのトレーニング	課題解決に向けてのトレーニング	県外遠征を通して試合でのメンタル強化のトレーニング	新メンバーでのチーム作り	課題解決に向けてのトレーニング	課題解決に向けてのトレーニング	全国選抜に向けての戦術中心のトレーニング	県外遠征・練習試合を通して、課題解決に向けたトレーニング	新学年に向けての、課題解決型トレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	安達高等学校サッカー部	顧問・外部指導者氏名	大内 悟・柳田和洋	電話/FAX	0243-22-0016	Email	ouchi.satoru@tt52.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 毎日のトレーニングをおとして、個人の体力や運動技能、チーム力の向上を図り、県大会でベスト4、県リーグ1部昇格を目指す。 (2) 部活動だけでなく学習にも計画的に取り組み、卒業後の進路目標を達成することができるよう努力する。			部員のニーズや要望・意見 (1) 県の上位に勝ち進めるチームになりたいと考えている部員が大半である。 (2) ほとんどの部員が部活動と休養のバランスがとれていると感じている。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって部活動と学習の両立に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、指導を受容的に受けるだけでなく、自ら問題解決を図れる態度を育成する指導をしていく。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 個人の基礎的技術、戦術、体力の向上 (2) チーム戦術、グループ戦術の向上			部員とのコミュニケーションの方策 (1) ミーティングを適宜実施し、練習や試合を振り返り、活動方針を確認しながら活動を進めていく。 (2) 指導スタッフが部員と意識的にコミュニケーションをとり、部内における指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) ボールを蹴る、止めるなどの基礎的技術を反復して身につけさせる。 (2) ウェイトトレーニングにより筋力の向上を図るとともに、短、中、長距離を走ることで、全身持久力や瞬発力の向上を目指す。 (3) ゲーム形式のトレーニングを行い、戦術理解の向上を図る。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間考査		期末考査 終業式	始業式		中間考査	修学旅行	期末考査 終業式	始業式	学年末考査	卒業式	
各種大会の予定	県リーグ戦	県リーグ戦 地区大会	県大会 県リーグ戦	県リーグ戦	選手権一次大会	県リーグ戦	選手権二次大会	地区新人大会	県新人大会				
練習試合・遠征等	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	週末に練習試合を 設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定			各フェスティバル 参加	
シーズン区分)	試合期	試合期	試合期	試合期	準備期	試合期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期	充実期	
活動内容・ねらい	・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人戦術を高めるトレーニング	・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人戦術を高めるトレーニング	・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人戦術を高めるトレーニング	・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人戦術を高めるトレーニング	・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人戦術を高めるトレーニング	・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人戦術を高めるトレーニング	・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人戦術を高めるトレーニング	・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人戦術を高めるトレーニング	・チーム戦術を高めるトレーニング ・グループ戦術を高めるトレーニング ・個人戦術を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・試合期を前にしたチーム戦術を高めるトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	県立安積高等学校 サッカー部	顧問・外部指導者氏名	根本浩一・中川正樹	電話/FAX	024-922-4310/024-931-5313	Email	nemoto.kouichi@nz73.fks.ef.jp
学校全体に関わって		。サッカー部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 安積の精神「開拓者精神」「質実剛健」「文武両道」に基づき生徒の自尊心や向上心を高め、授業や部活動に対する意欲を向上させ、高い志を持った生徒を育成します。</p> <p>(2) 部活動終了時刻の徹底や土曜開放の実施等により、学業と部活動のけじめをつけ、家庭学習の時間を確保しつつ部活動のさらなる活性化を図ります。</p>		<p>サッカー部の活動目標</p> <p>(1) 文武両道を実践し、チームの目標「選手権出場・F1昇格」と「難関大(第1志望)合格」を達成する。</p> <p>(2) 県を代表するにふさわしいチームになるために、日頃より質の高い立ち振る舞いを身に著け、行動する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 中学時代から文武両道を実践し、部活動と勉強の両立によって、入学・入部してくる生徒がほとんどである。</p> <p>(2) さらに高いレベルで実践し自己実現したいと思っている。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 個性を伸長する。</p> <p>(2) 姿勢と情操と実践力を養う</p> <p>(3) 自主自律の精神を培う。</p> <p>(4) 真理と正義を愛する、質実にして真摯な人物を育成する。</p>		<p>サッカー部の指導方針</p> <p>(1) バランスのとれた体力向上・運動技能の習得に努める。</p> <p>(2) 尊敬しあえる仲間になる。(自己主張と他者理解)</p> <p>(3) 敗者の美学を追究する。(たとえ負けても安高はすごいと言わせる魅力を持つ)</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 週に1度は完全休養日を当て、また、疲労度に応じた活動をFトレーナーやAトレーナーと連携し、組織的かつ柔軟に取り組む。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 心肺停止等 AEDや担架の設置場所・使用方法について選手・マネージャ全員が把握し、年1回の実技練習を受講している。</p> <p>(2) 強風・落雷等の自然災害等 ゴールが転倒しそうな場合や雷鳴している場合など、活動を中断・中止する判断基準を明確かつ周知徹底することで防止する。</p> <p>(3) 不適切な指導 生徒観察や些細な情報にも耳を傾け、相互理解を深め、不適切指導防止・予防に努める。</p>		<p>サッカー部の指導内容</p> <p>(1) オンシーズン期(4-10月)は、リーグ戦を通じて、M-T-M指導方式(ゲーム(Match)から抽出されたチーム課題をトレーニング(Training)により克服し、次のゲーム(Match)で習得を確認する。)を採用し、強化を図る。</p> <p>(2) オフシーズン期(11-2月)は、フィジカルトレーナーと協力し、体幹トレーニングを計画的に実施する。また、スタミナアップとして、インターバルトレーニングを継続して実施する。</p> <p>(3) プレシーズン期(3月)は、県外遠征2回、招待試合2回等で、チームコンセプトを確認する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 部活動日誌(輪番制)と各個人のサッカーノートにより記載されていることに対しての意見交換を行う。</p> <p>(2) 進路相談や生活相談等について、平日頃から個別面談を行う。</p> <p>(3) キャプテン中心のミーティングを試合前後に設け、意思疎通やコミュニティの場として設ける。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 保護者会総会 5月中旬IH地区大会時に、活動目標や年間計画を説明する。</p> <p>(2) 壮行会 選手権・新人大会の前に、保護者会主催で行い、結果報告する。</p> <p>(3) 夏合宿打上げ 同最終日に、保護者会主催でBBQ等の催しを行い、活動報告する。</p>		<p>サッカー部の指導方法</p> <p>(1) 科学的トレーニングと栄養摂取・休養を効果的に計画する。</p> <p>(2) 複数のスタッフや支援者(部長・GKコーチ・Aトレーナー・Fトレーナー・保護者会長)とのかかわりの中で、個々の見聞や社会性の向上を図る。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 各スタッフは、公認指導者資格を取得しており、指導理念は共通している。</p> <p>(2) 指導計画・内容は、立案時は勿論、年度途中でも状況・状態に応じて柔軟に対応していく。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 各種検査 PTA総会	GW	I期中間考査	球技大会 夏季休業			I期期末考査	校内ロード大会 修学旅行(2年)	II期中間考査	冬季休業	学年末考査	卒業式 終業式 春季休業	
各種大会の予定	Fリーグ開幕 1-4節	Fリーグ5節 クハ県予選	Fリーグ6~8節	Fリーグ9~12節	高校サッカー選手権 一次大会 Fリーグ'13節	Fリーグ 14~15節 県南U17大会	高校サッカー選手権 二次大会	同 決勝 新人戦地区	新人戦県大会 入れ替え戦				
練習試合・遠征等	郡山SF(後期)			茨城遠征(1/2年)	夏季合宿						いわき遠征	東北遠征 水戸遠征	仙台遠征 郡山SF(前期)
シーズン区分)	プレシーズン期 オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オフシーズン	オフシーズン	オフシーズン	オフシーズン プレシーズン	プレシーズン	
活動内容・ねらい	今年度のチームのベースとなる2・3年生中心のメンバーによる実戦の場とする。 Fリーグ1~4節をしっかり戦う。	全国大会出場を目標に戦う。 連戦になるのでコンディショニングには十分な配慮が必要である。	Fリーグ中盤戦で疲労や出陣の選手等が出るので、1年生の即戦力の見極めと戦術変更を模索する。	秋シーズンに向けた1・2年生の強化のための遠征とリーグ戦の結果を求め。	1次大会の結果を踏まえ、秋シーズンに向けて強化計画を再検討する。	リーグ戦の最終結果から次年度の強化策の原案を考え始める。	3年生最後の大会に向けて、チーム一丸となり戦う。	新チームのベース作りと技術・戦術の基礎基本の習得を再確認する。	今年の個人・チーム反省を適切に行い、来年の目標設定を設定する。	プレシーズンに向けた具体的な遠征計画・短期計画を立てる。	プレシーズンの成果を分析し、トレーニングに還元することで問題発見・課題克服に努める。	4月上旬のシーズンインから逆算したコンディショニングを重視する。	

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立浅香高等学校 ソフトテニス部	顧問・外部指導者氏名	星 正人 ・ 渡辺 知	電話/FAX	024(922)4310/024(931)5313	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 文武両道の校則に則り、学業と部活動の両立に努め、リーダーとなるべき資質を育成する。</p> <p>(2) 部活動を通して、心身を鍛錬すると共に、この成長を図りながら他者を尊重し協同する精神を培い、豊かな人間性を育む。</p> <p>(3) 活動目標や指導の指針を示し、自主的・自発的な活動を推進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 高校総体で団体戦において全国大会へ出場することを最終目標とする。</p> <p>(2) 今年度は1年生のみのメンバーとなるため、まず新人戦団体での県大会出場を果たす。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 難関大学への進学を希望している生徒が多く、家庭学習時間を確保するため効率の良い練習が必要となる。</p> <p>(2) 中学時代実績を残してきた選手は少ないため、基礎、基本を重視した練習が必要となる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密にし、生徒個々に応じた指導を図り、指導内容や指導法を研究することで、効果的に指導できるようにする。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 自分の可能性を信じ、諦めずに粘り強く目標に向かって努力することによって人間的に成長する。</p> <p>(2) 学業第一でその上に部活動があることを自覚し、文武両道の精神の元、部活動と学業の両立を図る。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 休日を定期的に取り入れると同時に、けが予防のために練習前にウォーミングアップを十分に行い、整理運動も確実にを行い、翌日に疲れを残さない練習を心がける。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うと共に、運動前後の身体の状況を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応ができるようにする。</p> <p>(3) 校内で不適切な指導に対するアンケートを実施し、かつ相談の窓口を設け、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) ソフトテニスの技術(ストローク、ボレー、ローボレー、スマッシュ、サービス等)</p> <p>(2) 体力トレーニング(ダッシュ、ランニング、ラダ等)</p> <p>(3) ゲーム練習</p> <p>(4) メンタルトレーニング</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 部長と意見交換を密に行い、選手の意向をくみ取り、練習、試合等の計画を実行する。</p> <p>(2) 2名の顧問とコーチで情報交換を行い、選手の現状を総合的に把握し指導に生かしていく。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度初めのPTA総会時に関係より、学校の部活動への取り組み等について説明し、質問を受ける機会を設ける。</p> <p>(2) 大会や合宿等の連絡を通して、活動内容や目的などについて保護者への説明責任をしっかりと果たしていく。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 平日は、16時40分～19時の基本を重視した練習を行う。</p> <p>(2) 土曜日、日曜日は、9時～13時のゲーム練習を入れた練習を実施する。</p> <p>(3) 他校との目的を明確化した練習試合を計画、実施する。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 指導者間で定期的にミーティングを行う。</p> <p>(2) 講習会で得た最新の指導法に関する情報を共有し、共通の指導方法のもと練習を行う。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動編成 PTA総会		中間考査	実力テスト 体育祭	夏季課外 課題テスト	期末考査	修学旅行	実力テスト 中間考査	冬季課外	課題テスト	学年末考査	卒業式 終業式
各種大会の予定	県中県南団体対抗 ジャパンカップ	高校体育大会地区	高校体育大会県 県総体地区	県総体県 インターハイ	斎藤旗杯	新人戦地区		新人戦県	インドア地区 インドア県	インドア東北		
練習試合・遠征等	地区大会へ向け他 地区と練習試合	秋田遠征 県大会に向け他県 と練習試合			いわきフェスタ 県中地区と練習試 合		他県との練習試合					山形近県
シーズン区分)	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	充実期	充実期	充実期	充実期
活動内容・ねらい	・高校総体地区大会に向け練習する。 ・新入生の勧誘と指導を行う。	・最大の目標である高校総体県大会へに向けた練習をする。	・東北大会、全国大会へに向けた練習をする。	・新チームを編成する。	・新人戦へ向け、基本技術、基礎体力の充実を図る。	・新人戦へに向けたゲーム練習を取り入れる。	・新人戦へに向けた新人戦県大会へに向けた練習をする。	・新人戦終了後インドアへの切り替えを行う。	・インドアでの試合に対する対策	・基礎体力トレーニング	・基礎体力トレーニング	・インドアからアウトドアへの切り替えを行う。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立安積高等学校・テニス部	顧問・外部指導者氏名	梅宮康弘・渡邊翔	電話/FAX	024 (922) 4310/024 (931) 5313	Email	Umemiya.yasuhiro@cs71.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 文武両道の校訓に則り、学業と部活動の両立に努め、リーダーとなるべき資質を育成する。</p> <p>(2) 部活動を通して、心身を鍛錬すると共に、個の成長を図りながら他者を尊重し協同する精神を培い、豊かな人間性を育む。</p> <p>(3) 活動目標や指導の指針を示し、自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) チームとして全国大会出場を旨とし、個々人の目標設定を明確にして、全体のレベルの向上に努める。</p> <p>(2) 部活動にのみ重きをおくのではなく、高いレベルで文武両道に努め、人間性の成長を図る。</p> <p>(3) 個の成長と部としての公共性を調和させ、自主的・自発的に活動できるようにする。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 全日本大会出場経験者と高校から競技を始めた者の実力差が大きく、個々に応じた指導機会を求めている。</p> <p>(2) 進路実現を大切に考えている部員が多く、学習時間の確保のために早期に計画を立ててもらいたいことを望んでいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密にし、生徒個々に応じた指導を図り、指導内容や指導法を研究することで、効果的に指導できるようにする。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 各人の長期目標・短期目標を設定し、学校対抗戦で全国大会に出場できるチームとなるように練習メニューを考え、精度を上げるように活動する。</p> <p>(2) 個々の成長を自主的・自発的に進めるように指導するとともに、自己の向上をチームとしての方に反映できるように協調の精神を涵養し、チーム力を向上させる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 競技力向上には体力向上が不可欠だが、基礎トレーニングの時間を増やすことは学習時間を奪ってしまうことになり、学習時間を確保しようと睡眠不足になると、怪我を発生しやすくなるので、平日の練習時間を厳守させ、休養日を必ず設けるようにしている。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うと共に、運動前後の身体の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応ができるようにする。</p> <p>(3) 校内で不適切な指導に対するアンケートを実施し、かつ相談の窓口を設け、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 週一度の休養日を設け、心身のリフレッシュと学方向上に努めながら、平日の短い練習時間を如何に密度濃くできるかお互い意識し合いながら活動させる。</p> <p>(2) 休日は積極的に練習試合・校内ランク戦を実施し、日々の練習を試合に活かせるように図る。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 部長を通して、選手の希望をくみ取りと共に、戦術等の質問を積極的にするように促し、選手の考え方の把握に努める。</p> <p>(2) 練習試合を通して、感想を具体的に話させ、アドバイスすることで一方的な指導にならないように注意する。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度初めのPTA総会時に関係者より、学校の部活動への取り組み等について説明し、質問を受ける機会を設ける。</p> <p>(2) 大会や合宿等の連絡を通して、活動内容や目的などについて保護者への説明責任をしっかり果たしていく。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 試合に勝てるようになることを一義と考え、普段の練習を練習のための練習にならないように留意した指導を行う。</p> <p>(2) 自分の行いたいプレイや試合の運び方を考えさせ、自己の技術と試合の戦略をマッチさせるようにする。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 顧問が3人いるので、副顧問に実力下位層の選手の指導をお願いし、かつ大会等で他の顧問の意見や感想を聞くことで、偏った考えにならないようにする。</p> <p>(2) 強化練習会での情報等を共有する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動編成		中間考査	実力テスト 体育祭	夏季課外 課題テスト	期末考査	修学旅行	実力テスト 中間考査	冬季課外	課題テスト	学年末考査	卒業式・終業式
各種大会の予定	全日本ジュニア 福島県予選会	高校体育大会地区 予選	高校体育大会県大 会 東北高校大会	全日本ジュニア東 北予選	インターハイ 全日本ジュニア 新人戦地区大会	新人戦県大会 国民体育大会	東北選抜大会	協会地区予選会		県ダブルス大会	東北ダブルス大会	全国選抜大会 協会地区予選会
練習試合・遠征等	秋田遠征	GW期間に強化練 習 練習試合を二日	練習試合を二日	強化練習会参加	強化練習会参加 練習試合二日	練習試合二日	練習試合を二日					
シーズン区分)	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	試合期	充実期	充実期	充実期	充実期	試合期
活動内容・ねらい	・県大会を勝ち上 がり、東北大会へ の出場権を得る。 ・高校体育大会地 区予選への練習。 ・新入部員の基礎 技術習得。	・高校体育大会県 大会選に向けた準 備をする。 ・各自の技術の向 上を図る。	・東北ジュニアに 向けた準備をす る。 ・各自の技術の向 上を図る。	・インターハイに 向けた準備をす る。 ・新人戦に向け、 各自の技術の向上 を図る。	・新人戦に向けた 準備をする。 ・各自の技術の向 上を図る	・東北選抜に向け た準備をする。 ・各自の技術の向 上を図る。	・東北選抜に向け た準備をする。 ・これまでの大会 を通して見つかわ なかった課題の解決 に向けた練習をする。	・各自の課題を解 決するための練習 をする。	・各自の課題を解 決するための練習 をする。	・基礎トレーニン グを中心に、屋外 で練習できる機会 を捉えて、各自の 基礎技術の向上を 図る。	・基礎トレーニン グを中心に、屋外 で練習できる機会 を捉えて、各自の 基礎技術の向上を 図る。	・全国選抜に向け た準備をする。 ・地区予選に向け、 各自の技術の向上 を図る。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立郡山高等学校サッカー部	顧問・外部指導者氏名	榑田正則 立田勇人	電話/FAX	024-951-0215/024-951/8911	Email	koriyama.h@pref.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、知・徳・体バランスのとれた人間力の高い生徒を育成する。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 技術の向上により全国大会出場を目指す。</p> <p>(2) サッカーをおとして社会で通用する人間性を身につける。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 思いやり。挨拶をする。時間を守る。物を大切にすること。</p> <p>(2) 単純なプレーを、より正確に行う。</p> <p>(3) 苦しいときこそ自分に負けない(敵に勝つ、自分に勝つ)</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 日常的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態に配慮する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ対策委員会を設置、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) とめる。ける。はしる。</p> <p>(2) 思いやりのあるプレー</p> <p>(3) チームとして戦うため、グループ戦術・チーム戦術の徹底。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動後援会総会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 短時間で中身の濃いトレーニング。</p> <p>(2) 日常生活と切り離さず考えてサッカーに取り組む。</p> <p>(3) 自分で練習を楽しくする。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者と適宜情報交換を行い練習内容や練習方法を検討する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生入部	中間考査	期末考査	文化祭・終業式 中学生体験入学 夏季課外	夏季課外		中間考査 マラソン大会	期末考査	終業式 冬季課外		期末考査	卒業式・終業式
各種大会の予定	U-18 サッカーリーグ開幕(9月まで)	地区高校大会	県高校大会		高校サッカー選手権大会(2次)	U-17 秋季大会	高校サッカー選手権大会(2次)	地区新人大会	県新人大会			
練習試合・遠征等	郡山 F(後期)	盛岡遠征		県外合宿	富山遠征 真岡カップ		選手権に備えての 県外遠征試合		千葉遠征	群馬遠征		土浦市長杯 郡山 F(前期) 埼玉遠征
シーズン区分	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	充実期
活動内容・ねらい	・フェスティバルをおとして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・基本技術の習得	・大会をおとして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・基本技術の習得	・大会をおとして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・グループ戦術の習得	・大会をおとして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・グループ戦術の習得	・大会をおとして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・グループ戦術、チーム戦術の確認	・選手権に向けてチーム戦術の徹底 ・心と体の調整	・大会をおとして見えてきたチームの課題解決に向けたトレーニング ・チーム戦術、リストアートの確認	・大会に向けてチーム戦術、リストアートの確認	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・基本技術の習得	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・基本技術の習得	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・基本技術の習得	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・基本技術の習得

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立郡山高等学校バスケットボール	顧問・外部指導者氏名	梅野克也 吉江和泰	電話/FAX	024-951-0215/024-951/8911	Email	koriyama.h@pref.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、知・徳・体バランスのとれた人間力の高い生徒を育成する。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) バスケットボールをとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 「限界への挑戦」をチームの目標として、「考えるバスケットボール」に取り組みせ、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) チーム目標である「限界への挑戦」を一人一人が具現化する個人目標を設定させた上で、県大会ベスト4をチームの達成目標として示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、一人一人に考えさせる指導を行い、「文武両道」の実践による心身の成長を促す。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、休休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 日常的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態に配慮する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ対策委員会を設置、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 基礎練習の大切さを実感させ、心身ともにバランスのとれた成長を促す。</p> <p>(2) プレー中の状態を、思考・判断・表現に分類して指導し、生きる力を養う。即ちどのようにプレーしたらよいかを常に思考させ、複数の選択肢からプレーの方法を自ら判断・選択させ、練習の成果を表現させる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動後援会総会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) プレーの見本を生徒に示し、それをもとに生徒どうしが互いに教え合うことで、主体的に活動できる生徒を育てる。</p> <p>(2) オフェンス、ディフェンスともに、効果的な方法を考えさせそれを論理的に説明できる生徒を育てる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者と適宜情報交換を行い練習内容や練習方法を検討する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生入部	中間考査	期末考査	文化祭・終業式 中学生体験入学 夏季課外	夏季課外		中間考査 マラソン大会	期末考査	終業式 冬季課外		期末考査	卒業式・終業式
各種大会の予定		地区高校大会	県高校大会	地区県総体		地区高校選抜大会 1年生大会	県高校選抜大会		地区新人大会	県新人大会		
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	夏季合宿(2泊3日)	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	卒業生壮行試合
シーズン区分	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	準備期	充実期	試合期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立郡山高等学校空手道	顧問・外部指導者氏名	清水 仁 菅井保夫	電話/FAX	024-951-0215/024-951/8911	Email	koriyama.h@pref.fukushima.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、知・徳・体バランスのとれた人間力の高い生徒を育成する。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>「心・技・体」空手道精神に則り、技術の向上のみならず精神力の向上も図る。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>空手道精神に則り、部員間においても礼を尽くし、周囲の方々への感謝の心も忘れずに活動を行うことで、心身ともに充実しバランスのとれた成長を図る。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 日常的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態に配慮する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体調・いじめ対策委員会を設置、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>活動を行う前には十分に準備運動をさせ怪我や事故の防止に努める。また、日頃から部員の県高観察に留意し、心身の状態の把握に努める。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動後援会総会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>毎月保護者に配付する活動予定表に日頃の部活動の様子を記載し、紙面を通じて普段の活動の様子が伝わるよう心がけ、保護者との情報共有と連携に努める。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者と適宜情報交換を行い練習内容や練習方法を検討する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生入部	中間考査	期末考査	文化祭・終業式 中学生体験入学 夏季課外	夏季課外		中間考査 マラソン大会	期末考査	終業式 冬季課外		期末考査	卒業式・終業式	
各種大会の予定		地区高校大会	県高校大会				地区新人大会	県新人大会					
練習試合・遠征等	他校との合同練習を設ける	強化練習		合同練習	合同練習		強化練習		合同練習			卒業生壮行試合	
シーズン区分	準備期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期	
活動内容・ねらい	・大会に向けて体力をつけることを念頭に置いての稽古を心がける。	・大会に向けて各自が課題を設定して稽古を重ねる。	・大会をおとして見えた反省点を踏まえ、その克服に向けた稽古を重ねる。				・大会に向けて体力をつけることを念頭に置いての稽古を心がける。	・大会に向けて各自が課題を設定して稽古を重ねる。	・大会をおとして見えた反省点を踏まえ、その克服に向けた稽古を重ねる。			・次年度に向けて体力をつけることを念頭に置いての稽古を心がける。	・次年度に向けて体力をつけることを念頭に置いての稽古を心がける。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立須賀川高等学校 テニス部	顧問・外部指導者氏名	上遠野優子・渡辺健一 鈴木ひかり 斎藤 学	電話/FAX	0248-76-3326 / 0248-72-7114	Email	assist@sukagawa-h.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 県大会出場を1つの目標とし、部員が一丸となって達成できるようにする。団体戦はもちろん個人戦においても昨年度以上の県大会出場者数を旨す。</p> <p>(2) チームの中で競わせ、個人ランキング制などを導入しながら定期的に順位戦を実施する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 高体連県大会を3年生の最後の大会と位置づけ、部内で盛り上げ、100%の力が発揮できるようにチーム管理、個人管理をさせる。</p> <p>(2) 試合会場への集合など、現地集合では、できる限り保護者の協力を得るようにする。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 練習での指導を素直な気持ちで受け入れられるように、日頃から指導者や先輩にしっかりと挨拶ができるなどの部活動内の礼儀を重んじる。</p> <p>(2) 集中して練習が行われるように時間を意識した練習を取り入れる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 1週間、2週間単位の練習メニューを考え、部員の心身の疲労回復を配慮する。</p> <p>(2) 練習中・後に効果的に水分補給を行い、練習後には適度に栄養補給するなど体力増進をはかる。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 外部講師の指導日に、指導内容が反映されるように部員の計画的な技能の習得を旨す。</p> <p>(2) 練習メニューをチームで考えさせ、問題意識を持たせるようにする。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 外部講師、顧問教師、部員のトライアングルコミュニケーションはもちろん、大会などで保護者にも声をかけ信頼感が得られるようにする。</p> <p>(2) 部活動だけでなく、普段の学校生活でも積極的に声をかける。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 学校と家庭の連携を密にした指導を心がける。</p> <p>(2) 試合の勝ち負けだけでなく、個人の日頃の練習成果が発揮できたかどうかを本人に自己評価させる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 練習試合や大会計画を早めに作成し、指導スタッフの役割を明確化する。</p> <p>(2) 外部講師の意図することを把握し、顧問教師から生徒にアドバイスできるようにする。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 部活動登録	中間考査	期末考査	校内体育祭 終業式			中間考査 修学旅行	期末考査	終業式		学年末考査	卒業式・終業式
各種大会の予定	協会主催大会	高体連地区大会	高体連県大会 県総体地区大会	県総体県大会	地区新人大会	県新人大会		協会主催地区大会		協会主催県大会		協会主催地区大会
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	夏季遠征 2泊3日	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	卒業生壮行試合
シーズン区分	充実期	試合期	試合期	試合期・準備期	試合期	試合期	準備期・充実期	試合期	準備期	充実期	準備期	試合期
活動内容・ねらい	・練習試合をととして見えてきた個人の課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・新入生に向けた基礎練習指導	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・上部大会を目指した弱点克服 ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をととして見えてきた個人の課題の解決に向けたトレーニング ・上部大会を目指した弱点克服 ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・新入生への体力トレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・上部大会を目指した弱点克服 ・ボール操作を高めるトレーニング ・新入生への体力トレーニング	・大会をととして見えてきた個人の課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・大会をととして見えてきた個人の課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	・練習試合をととして見えてきた個人の課題の解決に向けたトレーニング ・筋力、持久力向上を目指したトレーニング	敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	須賀川桐陽高等学校 バスケットボール部	顧問・外部指導者氏名	小野川 仁史	電話/FAX	0248-75-2151	Email	school@sukagawatoyo-h.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 生徒の自主性に基づいた部活動を通して自ら考え学ぶ力を養う。 (2) 自他を大切にす健康な心の育成をはかる。		各部の活動目標 (1) バスケットボール競技を通して自らの可能性を広げるとともに家族や仲間を大切にする心を身につける (2) 上位大会出場を目標に何事にもあきらめず取り組み姿勢を身につける			部員のニーズや要望・意見 (1) 県大会出場を目指した練習内容の充実。 (2) 部活動の活性化による学校生活の充実		
学校全体の指導方針 (1) 知徳体をバランスよく育むため部活動と学習活動を両立させる。 (2) 基本的な生活習慣の確立を基本として活動に取り組ませる。		各部の指導方針 (1) 日々の練習の意義をきちんと理解させ、部員同士が互いに技術を高め合えるよう指導する (2) 自己とチームの長所に目を向けながら、基本的な反復練習にも意欲を持って取り組むようにする			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 週1回の休日の設定と大会前には余裕を持った休日設定を行い疲労による怪我の防止をはかる。 (2) 考査、学校行事等を配慮し心身に負担が大きい場合は練習量を抑える。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 複数の顧問で指導にあたるだけでなく、他の運動部顧問からの助言も得ながら適切な指導がなされるように努める (2) 部顧問以外の教員にも率直に生徒の要望や指摘が伝えられるよう協力していく		各部の指導内容 (1) 1対1を基本とした攻撃技術の習得 (2) 積極的な防衛技術とその切り替えからの得点技術の習得			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習開始と終了時の助言と反省 (2) 大会、行事の前後におけるミーティング (3) 部員に関するマネージャーとの情報交換		
保護者等への説明機会 (1) 年度の初めにバスケットボール保護者会総会において活動計画、運営方針等について説明し理解を得る (2) 各行事の前に要項を配布し活動状況等を伝える		各部の指導方法 (1) 人数と選手の体力・技術に配慮し、初心者には別メニューを設定したり、筋力強化メニューは怪我防止等を考慮し実施順を通常メニューと分けて行う (2) 競技への積極性を引き出すため、楽しさや努力の成果を感じることができる達成目標を設定しながら試合に臨ませる			指導スタッフ間の連携策 (1) 週毎に顧問間でチームの状況、個々の部員の状況について情報交換し翌週の計画や課題への対応について確認する (2) 技術指導、管理運営、校外連絡調整等の業務を協力して行うことで相互理解に基づいた部活運営を行う		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	部活動編成	I 期中間考査	I 期末考査	夏季前期課外 夏季休業	夏季休業 夏季後期課外		II 期中間考査		II 期末考査 冬季休業	冬季休業 冬季課外授業	学年末考査	年度末休業
各種大会の予定		高校体育大会 地区予選会	高校体育大会 県大会 総合体育大会 地区予選会	総合体育大会 県大会	高校選抜大会 地区予選会	高校1年生大会	II 期中間考査	高校選抜大会	高校新人体育大会 地区予選会	高校新人体育大会 県南選手権		
練習試合・遠征等		春季遠征試合			夏季遠征試合							
(シーズン区分)	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オンシーズン	オフウィーク	オンシーズン
活動内容・ねらい	・目標・計画の立案と生徒総会における承認 ・新入生部活動紹介と編成	・高校体育大会予選会に向けた実戦練習 ・高校体育大会予選 ・大会の反省と新体制への移行	・新チームの基礎作り ・総合体育大会予選	・チームオフENSE、ディフェンスのための個々の能力の向上	・高校選抜大会に向けた実戦練習 ・ゲームコントロールと共通理解	・大会の反省と弱点の克服 ・スピード、コンプレッションの強化	・高校選抜大会に向けた実戦練習 ・継続的な体力強化と維持	・高校選抜大会 ・大会の反省と新人体育大会に向けた実戦練習	・高校新人体育大会 ・大会の反省と県大会に向けたコンディショニング	・高校新人体育大会 ・県南選手権 ・大会運営に関わる姿勢と正しい競技観を学ぶ	・年度の反省と次年度への準備	・オンシーズンのためのコンディショニングアップ

「事業計画書(様式2)」

学校名・部活動名	岩瀬農業高校・ゴルフ部	顧問・外部指導者氏名	長南哲也/大森賢治・角田博貴	電話/FAX	0248-62-3145/0248-92-2051	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心および社会性を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズや能力を十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づき、民主的で自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上、技術の向上を図る。 (2) 部活動をとおして、挨拶・マナー・エチケットなど社会的な常識や感謝する心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。			部員のニーズや要望・意見 (1) ゴルフ経験者と高校から始めた初心者が混在している。 (2) なるべくお金をかけずに、ゴルフ競技を続けたい。 (ユニフォームやクラブ、キャディーバックなど費用がかかる)		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって、自主的に活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、スポーツ科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた人間的な成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって、自主的に活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、スポーツ科学的な指導内容や指導法を積極的に活用する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 基本的に日曜日を休業日としている。 (2) 怪我、通院等で部活に参加できない場合は、通院等を優先させている。 (3) 自己体調管理も選手として重要なことだと指導している。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 危機対応マニュアルを策定・配布し、職員の危機管理意識を啓蒙すると共に、定期的に施設用具の安全点検を行う。また、生徒の運動の直前直後の心身の状態を的確に把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、教師も生徒も共に緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に服務倫理委員会やいじめ防止対策委員会等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 定期的に部活動における事故・けが防止を指導徹底する。また、生徒の運動の直前直後の心身の状態を的確に把握、健康自己管理についても指導する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を受講し、教師も生徒も共に緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 打撃練習、コース練習を取り入れ効果的な個に応じた練習方法を確立する。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 廊下ですれ違う時など、挨拶をするように指導している。その時にはこちらから声を掛けるようにしている。 (2) シーズンオフ時には、練習ノートを記入させ、コメントを書くこととしている。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や夏休み前の保護者会、各部活動保護者会において、校長や顧問等から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中の保護者会や学校WEB等により、部活動の運営状況や活動実績等について報告する。		各部の指導方法 (1) 練習を重ねていくことで、理想のスイングが完成されていく。日々の練習において改善するポイントをいくつかアドバイスし、生徒に吸収させる。 (2) コース練習においては、コースマネジメントが重要である。普段の打撃練習の成果が発揮できるよう、頭を使いよく考えてコースを回るように指導する。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者と連絡調整を行い、指導日を決定する。それぞれの部員の学校生活、学習成績等の情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づいた練習内容や練習方法等の情報を入手し、生徒に還元する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	中間考査	期末考査	終業式	始業式		中間考査 修学旅行	期末考査 体育祭 収穫祭	終業式	始業式	期末考査	終業式
各種大会の予定	県ジュニア	県高校大会	県総合体育大会 東北大会	東北ジュニア	県ジュニア 東北大会		県新人大会	新人東北大会				
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日 コース練習を設定	GWにコース練習	週末に隔週で1日 コース練習を設定	週末に隔週で1日 コース練習を設定	夏季休業において コース練習を設定	週末に隔週で1日 コース練習を設定	週末に隔週で1日 コース練習を設定	週末に隔週で1日 コース練習を設定	打撃練習等	打撃練習等	打撃練習等	打撃練習等
シーズン区分)	準備期	充実期 試合期	充実期 試合期	充実期 試合期	充実期 試合期	端境期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・大会をとおして 見えてきた個人技術の 解決に向けた練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向けた練習	・大会をとおして 見えてきた個人技術の 解決に向けた練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向けた練習	・大会をとおして 見えてきた個人技術の 解決に向けた練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向けた練習	・大会をとおして 見えてきた個人技術の 解決に向けた練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向けた練習	・大会をとおして 見えてきた個人技術の 解決に向けた練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向けた練習	・大会をとおして 見えてきた個人技術の 解決に向けた練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向けた練習	・大会をとおして 見えてきた個人技術の 解決に向けた練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向けた練習	・大会をとおして 見えてきた個人技術の 解決に向けた練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向けた練習	・大会をとおして 見えてきた個人技術の 解決に向けた練習 ・各自で高めたい 技能の習得に向けた練習	・筋力、全身持久力の 向上を目指したトレーニング ・柔道部との合同練習	・筋力、全身持久力の 向上を目指したトレーニング ・柔道部との合同練習	・筋力、全身持久力の 向上を目指したトレーニング ・大会に備えた打撃練習での打ち込み

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立岩瀬農業高等学校 馬術競技部	顧問・外部指導者氏名	藤田さとみ / 樋口佳菜 / 菊地史子 / 小澤紀夫・早津 農	電話/FAX	0248-62-3145 0248-92-2051	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心および社会性を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズや能力を十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づき、民主的で自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 乗馬をとおして、体力、技能の向上を図る。</p> <p>(2) 「人馬一体」をめざし、動物と一緒に行動することから、自然や他者を思いやる気持ちを養う。</p> <p>(3) 自主的な行動ができるよう、各自が考えて行動する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 初心者から始めるにあたり、施設・馬場状態の充実を要望。</p> <p>(2) 全国大会優勝という高い目標を掲げて、ひたむきに練習している。</p> <p>(3) 部員が増えてきたため、鞍数確保と馬の負担軽減を考え、今後頭数を増やしていきたい。そのための予算を増やしてほしい。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって、自主的に活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、スポーツ科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた人間的な成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 各種競技会での上位入賞を目的として参加し、自己の技術力向上を目指す。</p> <p>(2) 馬と触れ合わせることで、生徒に内在するストレスを軽減させ、精神的な健康を回復させる。</p> <p>(3) 生徒の技能に合わせた指導を行うことにより、人間性を涵養する。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 大会参加後は休馬とし、負担を軽減する。</p> <p>(2) 交代で給餌を行うことで、負担の軽減を図る。</p> <p>(3) 自身の技術・精神の成長について褒める指導を行う。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 危機対応マニュアルを策定・配布し、職員の危機管理意識を啓蒙すると共に、定期的に施設用具の安全点検を行う。また、生徒の運動の直前直後の心身の状態を的確に把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、教師も生徒も共に緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に服務倫理委員会やいじめ防止対策委員会等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 馬の扱いについて、管理方法（給餌、馬房の清掃、馬や道具の手入れなど）を一通り指導し、個人の技能に応じて、騎乗を行う。</p> <p>(2) 緊急時の対応について、指導を行う。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 顧問が交代で、放課後の指導に入り、馬の世話を一緒にしたりしている。</p> <p>(2) 顧問毎に得意な分野があるため、それぞれの分野で指導を行う。</p> <p>(3) 連絡を密にし、異常に早く気づけるよう対応する。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や夏休みの保護者会、各部活動保護者会において、校長や顧問等から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中の保護者会や学校WEB等により、部活動の運営状況や活動実績等について報告する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 乗馬について、事前に顧問や指導員が説明を行い、実際に手本を示す事で、学ばせる。</p> <p>(2) 大会に参加させ、全国大会常連校と本校馬術部との違いを見て気付かせる。</p> <p>(3) 乗馬クラブに依頼し、より多くの馬を経験させる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 大会毎に専門的な指導を行ってもらい、その都度気付いたことを話し合う。</p> <p>(2) 来校時に、指導方法を習い外部から見た率直な意見を参考とする。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定		中間考査	期末考査	終業式			中間考査	期末考査	終業式		学年末考査	卒業式・終了式
各種大会の予定		インターハイ予選 県大会	インターハイ予選 東北大会 県総体	インターハイ (団体戦)	インターハイ (個人戦)			県新人大会				
練習試合・遠征等					ノーザンファーム 合宿					ノーザンファーム 合宿		
シーズン区分)	準備期	試合期	試合期	試合期	準備期	充実期	準備期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	<p>飼育管理 乗馬の基礎</p> <p>馬の管理、基礎練習をとおして、馬に慣れさせる。2・3年生は、障害飛越の練習</p>	<p>飼育管理 常歩練習 軽速歩練習</p> <p>繰り返して基礎練習を行い、乗馬の基本を体得させる。</p>	<p>飼育管理 正反動練習</p> <p>馬の動きを直接受けけることで、駆足のしなやかさが早くなるため、繰り返して行うようにする。</p>	<p>飼育管理 駈歩練習</p> <p>調馬策を使用し、合図や手綱に気をとられないよう、揺れやバランスをしっかりと練習させる。</p>	<p>飼育管理 輪乗り練習</p> <p>円を描く練習で、手綱の重要性を理解させる。また、拳と脚の使い方も練習する。</p>	<p>飼育管理 前方騎座練習</p> <p>ツープポイントの騎乗を練習し、障害飛越の際の姿勢を理解させる。バランスの重要性を理解させる。</p>	<p>飼育管理 障害飛越練習①</p> <p>横木を使用し、最初は地面に置いたものから始め、徐々に高さを上げていく。生徒の技能に合わせ上下させる。</p>	<p>飼育管理 障害飛越練習②</p> <p>飛越時の姿勢を考えさせる。正しい姿勢以外は落馬の危険性があることを理解させる。</p>	<p>飼育管理 総合練習①</p> <p>今まで学んだ事を一通り体現させる。生徒毎にアドバイスを行う。</p>	<p>飼育管理 基本乗馬 放牧</p> <p>馬の体調と精神を充実させる。</p>	<p>飼育管理 基本乗馬 放牧</p> <p>馬の体調と精神を充実させる。</p>	<p>飼育管理 基本乗馬 放牧</p> <p>馬の体調と精神を充実させる。</p>

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立田村高等学校・卓球部	顧問・外部指導者氏名	橋本宏広・佐久間千絵	電話/FAX	0247-62-2185	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動に基づく目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動に基づく目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に自主的・自発的な活動を促進する。			部員のニーズや要望・意見 (1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。 (2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 個人の課題を明確にし、それぞれの能力に合わせて部活動ができるようにする。 (2) 生徒間のトラブルが起こらないように、日ごろから生徒と密にコミュニケーションをとり、生徒への配慮を怠らないようにする。 (3) 基礎体力を向上させ、個人の目標を達成できる喜びを実感させながら、次の目標を掲げられるような生徒を育てる。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。 (2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 外部指導者の指導を月に複数回を行い、技術の向上を目指す。 (2) 外部指導者と話し合い、通常練習メニューを作成し、それぞれの課題を克服できるように指導を行う。 (3) 基礎体力を身につけさせ、健康に配慮した練習を行い、自身も参加できる場所は参加しながら指導を行っていく。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生入部	部長会議 中間考査	期末考査	公開文化祭 終業式 体験入学	始業式	体育祭	中間考査 修学旅行・遠足	期末考査	終業式	英語検定	学期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定		IH 地区大会	IH 県大会 県総体地区大会	県総体県大会	卓球選手権大会地区大会	卓球選手権大会県大会	新人地区大会	新人県大会				
練習試合・遠征等												
シーズン区分)	準備～充実期	試合期	試合期	充実～試合期	試合～準備期	準備～充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・ラケット操作を高めるトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	小野高校 弓道部	顧問・外部指導者氏名	和田 真衣 折笠 有希	電話/FAX	024-72-3171/024-72-6211	Email	wada.mai@mu97.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして人間性の形成</p> <p>(2) 技術力の向上</p> <p>(3) 上位大会での入賞</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 上位大会への出場や入賞を目標としている生徒が多数いる。</p> <p>(2) 通学の関係で、週休日に来られない生徒がいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 適度な休養日を設けることで心身の疲労回復に努める。</p> <p>(2) 部活動中での怪我に十分気をつける。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、日曜日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 人間性の向上を目指して指導を行う。</p> <p>(2) 技術向上を目指して計画的に練習を行う。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 開始時と終了時にミーティングを行い、代表生徒の反省などを聞く。練習のときの様子から考えられたことを全員に話す。</p> <p>(2) 試合日程や生徒の様子を見ながら計画を立てる。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) あいさつや報告・連絡・相談を通して人間としての成長を促す。</p> <p>(2) 専門の教諭や各部の上級生が下級生の指導などを行い、計画的に技術向上を狙う。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	中間考査		期末考査 球技大会 終業式			中間考査① 文化祭	修学旅行	中間考査② 終業式		期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定		地区大会	県大会		高等学校体育連盟 弓道専門部県南地 区主催大会	地区新人大会	県新人大会	高等学校体育連盟 弓道専門部いわき 地区主催大会			高等学校体育連盟 弓道専門部県南地 区主催大会	
練習試合・遠征等		田村高校練習試合		夏季合宿 2泊3日								
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	準備期
活動内容・ねらい	・基礎的なトレーニング	・大会へ向けて計画的に練習行う。 ・練習試合を通して、大会への士気を高める。	・各自で高めたい技能の習得に向け互いに声をかけあう。	・基礎的なトレーニング	・新人大会へ向けて計画的なトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向け互いに声をかけあう	・大会へ向けて計画的に練習行う。	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向け互いに声をかけあう	・基礎的なトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向け互いに声をかけあう。	・基礎的なトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向け互いに声をかけあう。	・大会へ向けて計画的に練習行う。	・基礎的なトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立光南高等学校応援団・チアリーダー部	顧問・外部指導者氏名	長尾 恵子・三澤 温乃 (みさわ あつの)	電話/FAX	090-3754-0642	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部活動に打ち込める環境を準備し、部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づき自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>「苦しいときこそ笑顔」を合い言葉に、</p> <p>(1) チアダンスの技術力や表現力の向上と、全日本チアダンス選手権で全国大会入賞する。</p> <p>(2) 地域に密着した各種イベント、他の部活動の応援などを行い周囲に元気や活力を与えられるような活動をする。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 全日本チアダンス選手権大会に出場し、入賞することを目標に真剣に練習に励んでいる。</p> <p>(2) 各種イベント参加や野球応援としてのチア部の練習、全日本ダンス選手権に向けたチアダンスやヒップホップダンスの練習と多種多様な練習内容を身につけたいと日々練習に励んでいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 部活動など互いに切磋琢磨しながら目標に向かって努力する経験を通して、個性的な才能を伸ばすとともに自己を高め続ける力を育てる。</p> <p>(2) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示し、部員が見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(3) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、的確な指導内容や指導法を積極的に活用し、心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 部員のニーズを十分に踏まえ、計画的に練習に取り組みせ、技術や表現力を向上させると共に指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づき自主的・自発的な活動を促進する。</p> <p>(2) 部活動を通して、あいさつなどの基本的な生活態度や自己管理能力などを身につけさせる。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会や野球応援等がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休業を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 施設・設備の整備や安全で清潔な校内環境づくりに取り組む。</p> <p>(2) AEDや設置場所を確認し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等のスクールカウンセラー等相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 各種イベント、野球応援などの先輩方からの振り入れ、ダンスの技術力や表現力の向上を目指す。また、外部講師・指導者より各種のチアダンスやヒップホップダンス等の技術や表現力を習得し、習得した技術を後輩へと伝達する。</p> <p>(2) 部員相互の望ましいコミュニケーション力を高め目標に向かい心一つに取り組むことができるよう指導し支援する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について紙面や保護者会等で説明する機会を設定するなど、保護者との連絡を密に取る。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 部活動に打ち込める環境を準備し、部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づき自主的・自発的な活動を促進する。</p> <p>(2) 外部講師・指導者より技術面の指導を受け技術力・表現力を高める。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		中間考査	全校集会	全校集会	期末考査 修学旅行	20周年記念式典	文化祭 期末考査	全校集会	全校集会	期末考査	卒業式・終業式
各種大会の予定	桜祭り等イベント 野球応援		各種イベント参加	大町エール交流会 野球応援	各種イベント参加 高文連MB発表会		J CDA東北大会	J CDA全国大会	各種イベント参加 高文連チア練習会			
練習試合・遠征等	外部講師レッスン	外部講師レッスン	外部講師レッスン	外部講師レッスン	外部講師レッスン	外部講師レッスン	外部講師レッスン	外部講師レッスン	外部講師レッスン	外部講師レッスン		
シーズン区分)	準備期	準備期	準備期	準備期	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・1年生へ振り入れ ・野球応援練習 ・基礎技術の習得練習	・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・大会に向けダンスの振り入れ	・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・大会に向けダンスの振り入れ	・柔軟性・筋力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・大会に向けダンスの振り入れ	・持久力・表現力の向上を目指したトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・大会に向けダンスの振り入れ	・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての一体化の強化	・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・チームとしての一体化の強化	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	白河旭高学校弓道部	顧問・外部指導者氏名	シエルバ愛子・山崎一史	電話/FAX	0248-22-2535/0248-24-2779	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 弓道をおとして、努力の大切さ、他者を尊重し協力することの大切さを体得する。</p> <p>(2) 日々の練習の中で自分自身と向き合い、向上心を養う。</p> <p>(3) 学業との両立を図る。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 遅刻・課題を忘れる生徒がおり、居残り勉強をするため部活動に参加できないことがある。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 生徒の自主性を尊重し、部長を中心に組み立てるようにする。</p> <p>(2) 技術面・精神面においては、指導者のアドバイスを受ける。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 弓を引けるようになることから上位大会を目指せるようになるまでの技術指導。</p> <p>(2) 日々の指導を通じての精神面での指導。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 週6日の練習の中で、弓術と精神面を指導する。</p> <p>(2) 生徒の自主性を生かす指導を心掛ける。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間考査	期末考査	終業式			中間考査	文化祭 期末考査	終業式		期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定	県春季練成会	I H 地区大会	I H 県大会 I H I 県総体地区大会	県総体	夏季練成会	地区新人大会	県新人大会	1 年生大会	東日本大会予選会		春季練成会	
練習試合・遠征等	必要に応じて練習 試合を設定	必要に応じて練習 試合を設定	必要に応じて練習 試合を設定	必要に応じて練習 試合を設定	合宿1泊2日	必要に応じて練習 試合を設定	必要に応じて練習 試合を設定	必要に応じて練習 試合を設定	必要に応じて練習 試合を設定	必要に応じて練習 試合を設定	必要に応じて練習 試合を設定	必要に応じて練習 試合を設定
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・おらい	・5～7月の大会 に向けて技能の完 成度を高めるため の練習 ・上級生による1 年生の指導。	・大会に向けての 試合形式の練習 ・上級生による1 年生の指導。	・大会に向けての 試合形式の練習 ・2年生を中心と した新体制の確 立。 ・上級生による1 年生の指導。	・大会をおとして 見えてきたチーム 課題の解決に向 けたトレーニング ・上級生による1 年生の指導。	・大会をおとして 見えてきたチーム 課題の解決に向 けたトレーニング ・1年生の前の前 での指導。	・新人戦に向けた 試合形式の練習。 ・1年生の前の前 での指導	・大会をおとして 見えてきたチーム 課題の解決に向 けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向 けたトレーニング	・大会をおとして 見えてきたチーム 課題の解決に向 けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向 けたトレーニング	・大会をおとして 見えてきたチーム 課題の解決に向 けたトレーニング ・各自で高めたい 技能の習得に向 けたトレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向 けたトレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向 けたトレーニング	・各自で高めたい 技能の習得に向 けたトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立済工業高等学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	石田 学・近藤邦男	電話/FAX	0247-43-2131 / 0247-43-3841	Email	ishida.manabu@jw74.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をととして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1)部活動を通して、基礎体力の向上とスポーツの楽しさを実感する。また武道家として礼儀作法の習得を心がけ、普段の学校生活においても、他人の見本になるような行動をとる。</p> <p>(2)各種大会において上位入賞を目標としている。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、通塾のため部活動の早退を希望する部員もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1)毎月練習計画表を作成し、生徒に提示することで生徒が見通しをもって部活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2)部員と日頃から会話を徹底し、心身ともに体調の管理を徹底して行うことで、部員の体調に合わせた指導を展開する。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休業を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体調・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1)準備運動を入念に行い、寝技の乱取りや立ち技の乱取り、段階に合わせて投げ技や関節技の攻防を展開していく。</p> <p>(2)週に3日は体力作りのため、ロードワークや筋肉トレーニングを取り入れる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 指導スタッフが意識的会話をもち、また個別面談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1)顧問が立ち会い、外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等をもとに実践させる。</p> <p>(2)疑問点などがあれば練習ノートに記録し、外部指導者来校時に質問するなどの対策をとる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	中間考査	期末考査	体育祭 終業式			中間考査	期末考査	終業式		期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定		高体連地区大会	高体連県大会 県総体地区大会	県総体		地区新人大会		県新人大会	協会主催大会			
練習試合・遠征等		大会期間を除き週末に1日練習試合を設定			夏季遠征 2泊3日	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定		大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	冬季遠征 2泊3日		週末に隔週で1日練習試合を設定	卒業生壮行試合
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	試合期	準備期	試合期	充実期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい		・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をととして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング				・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立修明高等学校ホッケー部	顧問・外部指導者氏名	鈴木 博幸 ・ 遠藤 浩太郎	電話/FAX	0247-33-3214 / 0247-33-7943	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図る。また、他者を尊重し協同する精神や公正さと規律を尊ぶ態度を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員に、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係を構築し、自主な活動を啓発する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 昨年度IH出場を果たすことができたので、連続出場することを目標とする。</p> <p>(2) ホッケーを通じて心身の発達と良き人材育成をめざすとともに、地域に貢献できる人間を育成する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) IH出場を目指す。</p> <p>(2) 言われた事をやり遂げる力を持っているが、自発的に行動や発言できる生徒が少ない。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針を示すことで、部員が明確な意思を持ち活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 意欲向上の為に目標設定を明確にする。メンタルトレーニングを行い、感情コントロールの術を学ばせる。</p> <p>(2) 日常の行動や思考が部活動にも影響を及ぼすことを理解させ、日常生活の活発で模範的な行動を促す。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 毎週月曜日を休養日として設定している。</p> <p>(2) 怪我を訴える生徒は、怪我の程度により通院の指示をしている。また、できる範囲で活動し無理をさせてはいない。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行い、運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 練習試合を1カ月に平均3回以上設定し、試合での課題や成功を練習に繋げる。個々のフォーカルポイントを設定させ、感情のコントロールの仕方を教える。</p> <p>(2) 年に2回、地域へのボランティア活動を行う。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習後に、練習中に気づいたことを伝え考えさせている。また、練習後に生徒と会話し、生徒とのコミュニケーションを図っている。</p> <p>(2) 技術指導とメンタルトレーニングを通じて、心身の発達を促している。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会において、校長や教務部長から活動結果等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 月末や学期末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) ハイスピード・ハイプレッシャーの中で、技術の正確さを向上させるために、日々の練習の中で速さと正確性を意識した指導を行う。</p> <p>(2) 体力の向上を目的として、インターバル・プライメトリックトレーニングを定期的実施する。</p> <p>(3) 限られた時間で効果を上げられるように、集中と切り替え、声出しを徹底させる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 第1顧問と外部指導者が連絡を密に取り、学校生活の情報等を話している。</p> <p>(2) 外部指導者から指導上の注意点を教授いただき、外部指導者が居ないときでも指導をする。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定		1学期中間考査	1学期期末考査	夏休休業		修学旅行	2学期中間考査	2学期期末考査	冬休休業	3学期末考査	1・2学期末考査	春休休業
各種大会の予定			全国高校総体東北地区予選会		全国高校総体		全国高校選抜東北地区予選会					全国高校選抜
練習試合・遠征等												
(シーズン区分)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
活動内容・ねらい	新入生を確保し、目標を明確とする。冬期期間の練習で身に付いた基礎体力を維持しながら、技術力向上を目指す。	高校総体東北大会1カ月前なので、練習試合を多く設定し、東北大会に生かす。また、ボランティア活動を通して地域貢献する。	高校総体東北大会を通過し、全国出場を目指す。また、メンタルトレーニングをしっかりと行い、あきらめないうチーム作りを目指す。	全国高校総体に向け技術の向上を目指し、トレーニングに励む。また、体調を万全にして大会に臨めるよう、体のケアにも努めさせる。	全国高校総体で、1つでも多く勝ち星を挙げる。また3年生が抜けてからのチーム作りをする。また、高校選抜に向けた強化を行う。	新チームの方針を明確に提示し、目標を持って活動できるように努める。また、メンタルトレーニングを実施し、3年生が抜けたことによる心のサポートも実施していく。	高校選抜東北大会を通過することを目標とする。また、東北大会後は公式戦が無くなるので、目標を高く掲げ来年の6月に向けた基礎体力に励む。	技術面はもちろん、体力面も強化する。また、心肺機能の向上や筋力アップを目指す。個々に目標を設定し、課題を設定する。	体力面の強化をメインに、技術力の向上・維持にも力を入れる。	体力向上と技術力の強化を指導していく。	体力向上はもちろん3月のシーズン開始に合わせた強化日程を作成し、生徒に日程と目標を提示する。	全国高校選抜に出場した場合には、1勝でも多く勝ち進むことを目指す。また、6月に向けた本格的な技術力向上を目指す。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	葵高等学校 なぎなた部	顧問・外部指導者氏名	高橋 敏哉 ・ 石山 友子	電話/FAX	0242(27)5461 / 0242(27)5462	Email	takahashi.toshiya@tm07.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神公正さと規律を責ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) なぎなたの正しい技・所作を身に着けるとともに、個人戦・団体戦での県大会優勝を目指す。体力・競技力の向上を目指す。</p> <p>(2) なぎなた競技を通して、他者を尊重する態度や連帯感を養い望ましい人間関係を形成する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 高校入学を機に部活動に参加した生徒と小・中学校などからスポーツ少年団で競技をしてきた生徒が混在しているが、部員の目標は、県大会優勝・全国インターハイ出場である。</p> <p>(2) 生徒は、文武両道の実現を目指している。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導方針及び年間活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的の見通しを持って活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 演技・試合（団体戦・個人戦）で部員が自分の能力を最大限に発揮できるように各自が持つ技術に応じた指導を行う。</p> <p>(2) なぎなた競技の基本である礼節を重んじるとともに、科学的・専門的な指導を行い、部員の身体・精神の健全な成長を促す。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 放課後の限られた練習時間を充実するように指導する。</p> <p>(2) 休日の練習時間も3時間程度とし、疲労を残さない。</p> <p>(3) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努めるとともに、正しい姿勢が日常生活でも生かせるよう意識付けをする。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状況を把握する。</p> <p>(2) AED や救急救命法の校内研修を実施し、緊急時の対応への備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 部員各自が日常の練習で演技競技の基礎・基本の確認を行う。</p> <p>(2) 様々な形態の稽古を通して自分の弱点を克服するとともに、長所を生かした試合ができるよう指導する。</p> <p>(3) 学校生活全般を通して、礼節を重んじるなぎなた競技者としての意識を持たせる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 個々の部員との練習ノートの交換を通して練習や試合を振り返り、日常の稽古の指導・支援の改善に生かす。</p> <p>(2) 公式試合・練習試合後の反省会を通して、チームとしての長所・短所を確認するとともに、各人の課題を明確化し、改善に生かす。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 通常の学校での部活動で各自が技能・競技力の向上に努める。</p> <p>(2) 地区連盟の合同練習会にも計画的・積極的に参加し、科学的・合理的な練習方法や練習を行う。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠や正しい演技・作法などに基づく練習内容や練習方法などの情報入手し、日頃の効果的な練習に活用する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式 新入生歓迎会 部登録	中間考査	期末考査	終業式	始業式	体育祭	中間考査	期末考査	終業式	始業式	学年末考査	卒業式 終業式
各種大会の予定			IH県大会 東北選手権大会 地区総体	県総体 IH全国大会	東北総体	団体	連盟主催大会	新人戦県大会		東北選抜大会	連盟主催大会	全国選抜大会
練習試合・遠征等	連盟主催錬成会			連盟主催錬成会	連盟主催錬成会				県錬成会	東北錬成大会		連盟主催錬成会
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・各自が自らの特性を生かし、技能を向上させるトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング	・各自の技術向上のためのトレーニング ・大会を通して各自の課題を確認したトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング	・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング	・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング	・大会を通して見えてきたチーム課題解決に向けたトレーニング ・自らの課題を克服するためのトレーニング	・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング	・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング	・各自の技術向上のためのトレーニング ・技術面での基礎・基本を意識したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立若松商業高等学校ソフトテニス部	顧問・外部指導者氏名	顧問：新田康徳 ・ 外部指導者：角田敏明	電話/FAX	0242-27-0753 / 0242-29-7380	Email	nitsuta.yasunori@aai18.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>学校全体の活動目標と同じ</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 定期考査、資格試験の前など、学習時間をきちんと確保したいと考えている部員が多い。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>学校全体の指導方針と同じ</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) ソフトテニスの技能を向上させると共に運動能力と体力の充実を図る。</p> <p>(2) 生徒相互の活動を通し、コミュニケーション能力の向上を図り、互いに尊重し合い助け合い協力し合う心の育成を図る。</p> <p>(3) 公式の試合等に対応できる技能を身につけることにより、自己の達成感と充実を図り、社会に貢献できる人格の育成につなげる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導スタッフが目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 学校保健、活動時間、活動内容等本校部活動における安全管理、運営方針等については、年度当初PTA総会等において文書及び口頭により周知徹底する。</p> <p>(2) 練習計画、大会等については、校長、顧問の連名による文書等において周知し、その活動に関する生徒参加等について保護者からの承諾を得て実施する。</p> <p>(3) 生徒の活動状況等については、折に触れ保護者へ連絡する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 放課後並びに休日において決められた練習時間内での活動を遵守する。</p> <p>(2) 準備運動とクールダウン、ストレッチを重視し身体に余分な負荷がかからないよう十分配慮する。</p> <p>(3) 基本動作を重視し、段階的な技術の向上を図る。</p> <p>(4) 生徒の自発性を重視し、互いに意思を交換し技術の向上を図る機会を設ける。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部	中間考査	期末考査	球技大会 終業式	始業式	職場実習	強歩大会 中間考査 作学旅行	文化祭 芸術教室 期末考査	終業式	始業式	学年末考査	卒業式・終業式
各種大会の予定	春季大会	地区大会	県大会	県総体	研修大会	地区新人大会	秋季大会 1年生大会	県新人大会	インドア大会		研修大会	
練習試合・遠征等	週末に隔週で1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	夏季遠征 2泊3日	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	大会期間を除き週末に1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	週末に隔週で1日練習試合を設定	卒業生出陣試合
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・5、6月の指導内容を融合したトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	・大会をおとして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・10月と同等のトレーニング	・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング ・ボール操作を高めるトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・空間に走り込むなどの動きを高めるトレーニング	12、1月の指導内容を融合したトレーニング	・今まで内容を総括したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立会津工業高等学校	顧問・外部指導者氏名	境 倅太・加藤 幸伸	電話/FAX	0242-27-7456 / 0242-29-9239	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動をとおして、個性の伸長を図るとともに、社会性、規範意識や基本的な生活習慣を身に付けさせる場とし、社会性を育む基礎を養う。 (2) 指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進し、上位大会出場者の増加を図る。		各部の活動目標 (1) 空手道の段位取得を目指し、3年間の部活動で部員全員が初段の段位を取得する。 (2) 空手道を未経験で入部してくる部員のみだが、大会時に1回でも多く勝利できるように競技力向上を目指す。 (3) 空手道、武道を通じて礼儀作法、規範意識を習得させ社会性の育成を行う。			部員のニーズや要望・意見 (1) 空手道の段位取得を目的としている部員、加えて大会での勝利を目的としている部員が混在している。 (2) 試験期間中は学業を優先したいと考えている生徒もいる。また、遠方から通学しているため電車時間を意識しながら活動する生徒も所属している。		
学校全体の指導方針 (1) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、社会で通用する判断力、行動力の育成を促す指導を展開する。 (2) 学校全体として部活動に所属する生徒の多くが上位大会に出場する。部活動が活発である校風を活かし生徒たちがより多く上位の大会に出場できるよう、競技力向上を目指した指導を行う。		各部の指導方針 (1) 対話を軸に個々の部員の状況、実力を把握し、それぞれに適した指導を行い、競技力向上を図る。 (2) 部員達が自ら考え活動する部活動を行い、主体性の育成を図る。 (3) 外部指導者の高い指導力を活かし、競技力向上のみならず、精神、態度などについても指導を行い、社会で通用する人間育成を目指した指導を展開する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 1か月に4日間は休養日を設定し、身体の疲労回復だけでなく、リラックスする機会を与え精神的ストレスを溜めさせないように留意する。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、無理に部活動を強要せず、通院や休養を指示し、身体の障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 施設用具の安全点検を定期的に行うとともに、運動直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AED、救命救急法の研修を受講した教員を配置することで、緊急時の対応への備えを万全にする。 (3) 各部活動に、複数名の顧問を配置し、部員が悩みを相談しやすい部活動風紀の生成を行う。		各部の指導内容 (1) 空手道の基本、組手、形練習、体力向上を目指した筋力、および体幹トレーニング、ランニング練習を軸に、部の状況に適した練習を行うことで競技力向上を図る。 (2) 競技力向上の指導のみでなく、経験談、精神コントロール手法などについても指導する。 (3) 部活動の開始、終了時にしっかりと礼、黙想を行い、武道に取組む姿勢、態度を育成する。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 練習や試合を振り返り、振り返った内容を練習メニューに取り入れ反省を活かして部活動に取組む意識を持たせる指導を行う。 (2) 部員と部活動に関する会話のみでなく、学校生活の会話等を通して信頼の向上に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、保護者への学校アンケートを実施し、教育活動、部活動に関する意見を集約する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 練習時にはマットを敷き公式大会と同等の環境で練習をさせる。 (2) 部員同士で部活動について議論させ内容を練習に反映させることで主体性の育成を図る。 (3) 外部指導者、顧問が生徒に手本を示し、生徒一人一人に適した指導を行う。 (4) 外部指導者の経験談、練習、試合時の精神コントロールについても生徒に適切に伝える。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者と顧問で練習メニューを検討し、外部指導者と顧問との間で指導内容の相違がないよう努める。 (2) 外部指導者に対し、学校内での部員の状況を伝えるとともに、指導上の留意点がある場合の事前連携を徹底する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介	中間考査	期末考査 強歩大会	期末考査 終業式	始業式		中間考査 文化祭	修学旅行	期末考査 終業式	始業式	期末試験	卒業式 終業式
各種大会の予定			県大会 東北選手権	県総体	インターハイ			県新人大会		東北選抜		全国選抜
練習試合・遠征等	数校集まったの 練習試合を設定	数校集まったの 練習試合を設定		地元道場主催の 昇段・級審査	夏期合宿実施予定	練習試合を設定	数校集まったの 練習試合を設定	数校集まったの 練習試合を設定	地元道場主催の 昇段・級審査			
シーズン区分)	充実期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期	準備期	準備期	準備期	充実期
活動内容・ねらい	開催の大会に向け 各自の技を磨き 大会に備える。	次月開催の大会に 向け各自の技を 磨き大会に備え る。	大会で自分の実力 を発揮できるよう 自己の実力把握と 技の確認を行う。	審査会で昇段、昇 級できるよう更な る技磨きを行う。	筋力、体力を強化 し、組手を戦い抜 く体力を着ける。 また、形において 美しい演武ができ るよう体幹を鍛え る。	筋力、体力を強化 し、組手を戦い抜 く体力を着ける。 また、形において 美しい演武ができ るよう体幹を鍛え る。	県新人戦で他校に 打ち勝つ実力をつ けるよう、実戦的 な練習内容を行 う。	自己の実力を把握 し、得意技を磨く 等、試合で勝ちぬ けるよう調整を行 う。	審査会で昇段、昇 級できるよう更な る技磨きを行う。	筋力、体力を強化 し、組手を戦い抜 く体力を着ける。 また、形において 美しい演武ができ るよう体幹を鍛え る。	筋力、体力を強化 し、組手を戦い抜 く体力を着ける。 また、形において 美しい演武ができ るよう体幹を鍛え る。	次年度の県大会に 向け実戦的な練 習を行う。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立相馬農業高等学校・ボクシング部	顧問・外部指導者氏名	顧問 速藤 俊太郎 ・ 村田 和丈 外部指導者 高橋 弘典	電話/FAX	0244-23-5175 / 0244-23-1483	Email	school@soma-ah.fka.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 運動部の活性化を通して、体力や運動技能の向上を図るとともに、生涯にわたりスポーツに親しみ資質や能力を育てる。 (2) 共通の課題に自発的、自治的に取り組むことで、自主精神や自治精神を養うきっかけとなり、高等学校時代を通じて人生の基本となる考え方を形成する。		各部の活動目標 (1) ボクシング競技を通して、望ましい心身の発達をはかり、体力の向上と健康の保持増進を目指す。 (2) ボクシング競技を通して、互いの心をくみとり合い、深い人間理解に努めるとともに、周囲の人に対する思いやりの精神を養う。			部員のニーズや要望・意見 (1) 部員数は少ないものの、部員一人一人の練習に対する熱意は強く、外部指導者に対する部員の信頼も厚い。 (2) 技術的に未熟ではあるが、向上心が強く、県大会での勝利と東北大会への出場を目標に努力している。		
学校全体の指導方針 (1) 1学年は全員を部活動に加入させ、高校生としてふさわしい心身の発達を促すような部活動指導を行う。 (2) 活動目標や指導方針及び年間活動計画を提示し、部員が見通しをもって活動に取り組めるようにする。		各部の指導方針 (1) 部員とのコミュニケーションを図りながら、ボクシング部の一員として所属感や連帯感を深めることができるように働きかける。 (2) 科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、各部員の課題に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 外部指導者の指導日(主に土・日)は、平日の練習に比べ練習量が多くなりやすいため、翌日月曜日は休業日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 施設、用具等の安全管理を徹底するとともに、各部員の心身の状態を把握することで、事故防止に努める。 (2) 緊急時への対応方法を生徒にも理解させ、顧問や外部指導者への報告・連絡・相談を密に行うように指導する。 (3) 学級担任や養護教諭、スクールカウンセラーなど、校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) ボクシング競技における基礎的な技術やルールを身につけさせる。 (2) ボクシング競技を通して、礼節を重んじ相手を敬う精神を養う指導を行う。 (3) 外部指導者とも連携し、各階級に合わせたトレーニングメニューの設定や、食事・栄養面の指導を行う。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 毎日の練習内容と各自の課題を日誌に記録し、顧問・外部指導者の両者が目を通して指導・支援の改善に活かす。 (2) 顧問・外部指導者間で部員の指導上の課題を共有し、早期解決に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 主に土・日に外部指導者を招き、指導を行う。その際に、顧問と外部指導者で打ち合わせを行い、各部員の現状や課題に応じた平日の練習メニューを設定する。 (2) 毎日の練習内容や気付いたこと、課題などについて練習日誌に記録させ、顧問・外部指導者が確認をし、各部員に個別指導をする。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介・新入部員オリエンテーション	中間考査	期末考査	終業式	始業式	中間考査	相農祭	期末考査	終業式	始業式	学年末考査	卒業式・終業式
各種大会の予定								県新人戦				
練習試合・遠征等							県下合同合宿 練習試合			県下合同合宿 練習試合		県下合同合宿 練習試合
シーズン区分	充実期	試合期	充実期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・試合に向けた実践的なトレーニング ・個別の課題に応じたトレーニング	・試合に向けた実践的なトレーニング ・体重の調整	・試合に向けた実践的なトレーニング ・個別の課題に応じたトレーニング	・試合に向けた実践的なトレーニング ・体重の調整	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・試合に向けた実践的なトレーニング ・個別の課題に応じたトレーニング	・試合に向けた実践的なトレーニング ・体重の調整	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立新地高等学校・バレーボール部	顧問・外部指導者氏名	顧問：高野由起子 外部指導者：島紘一	電話/FAX	0244-62-2009/0244-62-5021	Email	takano.yukiko@ei63.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、生徒の運動技能と体力の向上を図るとともに、県大会出場を目標にしながら、生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を育てる。</p> <p>(2) 地域の指導者と部活動顧問が連携・協力しながら、生徒一人ひとりの性格・行動特性等にに応じた指導をし、協調性や忍耐力等を身に付けさせ、豊かな心をはぐくむ。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 地区大会3位と県大会1勝を目指し、部員が技術向上しながら協力したチームワークづくりができるようにする。</p> <p>(2) バレーボールを通して、個々の部員の性格や行動特性等を尊重しつつも、社会人で大切な規範を認識させるように指導していく。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 3年生が二人、1年生が一人入部し、7人で活動しているが、能力が高い部員とあまり高くない部員の差が大きい。</p> <p>(2) ケガや持病持ちの部員が多く、声を掛け合い、助け合いながら協力して活動するよう指導する。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも県大会出場を目標に指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 生徒会が各部の出席状況を調査しながら部活動の活性化を図り、指導者は部員とのコミュニケーションを密にすることで、部員の発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 部員が少なく、部員各自のモチベーションが目標に向けての士気の高揚に大きく関わってくるので、常に目標の確認をし、同じ目標に向かって練習できるように指導する。</p> <p>(2) とにかく欠席をせず、限られた時間を有効に使って練習する。また、日頃から部員とのコミュニケーションを大切にし、気持ちの軌道修正をしながら目標に向かって指導していく。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 練習試合等がなければ、週休日のいずれか1日を休業日とする。月曜日と木曜日は3キロ走と筋トレを行う。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 部員一人ひとりの能力の差が大きいので、お互いにそれを認識させ、チームとして向上すべき課題を中心に練習に取り組ませる。</p> <p>(2) 始まる時間、終わる時間と練習する内容を指示し、その指示した時間内に課題が終わるようメリハリをつけて練習に取り組ませる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 大会後に個人の反省・課題、チームの反省・課題を記述させ、みんなの前で発表し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 顧問が部員と面談した内容を外部指導者に報告し、アドバイスを受け、指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 年度の初めや各大会後、3年生が引退した後にミーティングを行い、目標を確認し、自分たちの課題や課題について検討していく。</p> <p>(2)モチベーションが下がった部員に対して面談を行い、自分が今できることとできないことを考えさせ、できることから取り組ませる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日前日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から今までの豊かな経験に基づいた練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 部活動登録	鹿狼山登山 生徒総会 中間考査	期末考査 新体力テスト	終業式 前期スポーツ大会	リーダー研修会		中間考査 校内文化祭	文化祭 期末考査	後期スポーツ大会 終業式	部活動顧問会	期末考査	卒業式・修了式
各種大会の予定		高校体育大会地区大会	県高校体育大会 県総地区大会	県総体県大会		協会主催選手権大会			地区新人大会	県新人大会		
練習試合・遠征等	春休みと連休に練習試合を設定	GWに1日練習試合を設定	大会前に1日練習試合を設定	大会前に1日練習試合を設定	夏季強化練習 夏休みに2日練習試合を設定	大会前に1日練習試合を設定	月に1度練習試合を設定	月に1度練習試合を設定	大会前に1日練習試合を設定	大会前に1日練習試合を設定		
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	充実期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	・各ポジションの技能トレーニング ・試合に向けてフォーメーションの確認と、課題解決のためのトレーニング	・大会に向けてのチームづくり ・大会をとおしてでてきた課題解決に向けての練習	・大会に向けてのチームづくり ・大会をとおしてでてきた課題解決に向けての練習	・大会に向けてのチームづくり ・大会をとおしてでてきた課題解決に向けての練習 ・新チームに向けての個人の技術向上のためのトレーニング	・新チームのポジション決めと個人技能の習得 ・フォーメーションの決定とチーム練習 ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・大会に向けてのチームづくり ・大会をとおしてでてきた課題解決に向けての練習 ・ボール操作を高めるトレーニング	・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会に向けてのチームづくり ・大会をとおしてでてきた課題解決に向けての練習	・大会に向けてのチームづくり ・大会をとおしてでてきた課題解決に向けての練習	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング	・敏捷性、瞬発力の向上を目指したトレーニング ・筋力、全身持久力の向上を目指したトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立いわき総合高等学校・剣道部	顧問・外部指導者氏名	顧問・佐藤 弘晃 指導者・佐藤 雅春	電話/FAX	0246-26-3505 / 0246-26-8273	Email	satou.hiroaki@ss37.fka.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通して総合的なコミュニケーション能力を育成し、生徒の自立的な活動と主体的な規律を涵養する。</p> <p>(2) 各種運動の合理的な実践により生涯を通して継続的に運動できる能力を養う。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 剣道の鍛錬や修養の中で「礼節を尊ぶ」ことを学び、お互いを敬う心や、礼法指導によって、節度ある生活態度を身につけ、「交剣如愛」の輪を広げることを目指す。</p> <p>(2) 日頃の練習の成果として昇段審査を受審し、個々の技術や練度に応じた段位の取得を目指す。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ちたいと思っている生徒と、剣道の段位が取得しただけの生徒が混在しており、練習に対する意識に差がある。</p> <p>(2) 長時間かけて通学している生徒もいるため、平日の練習終了時間が遅くならないよう配慮する。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 年間の活動計画、並びに月間の活動計画を明確にし、生徒が見通しをもって活動に取り組めるように配慮する。</p> <p>(2) 生徒だけでなく顧問教員も指導者から剣術指導を受けることにより、教員自身の剣術指導の向上をはかる。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 剣道部としての日々の活動の中で、基本的な礼法指導や、規律のとれた団体行動、ならびに豊かな人間性を育成できるようにする。</p> <p>(2) 「我以外皆師」の精神のもと、生徒がお互いの改善すべき部分を指摘し合い、全体で技術の向上が図れるようにする。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 一か月以内に公式大会がない場合は一週間に2日を休業日とし、公式大会がある場合でも、最低一週間に1日を休業日として、心身の疲労回復に充てる。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員には通院を指示し、練習中に不自然な挙動を見せた場合も、早めの対処を行えるように努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 施設設備の充実や、施設管理の保全に努め、活動中における事故を未然に防ぐ。</p> <p>(2) 部活動顧問はAED講習や救急救命法講習会などに参加し、緊急時への対応を万全にする。また、緊急時には管理職に連絡し、状況を直ちに判断できるよう体制を整備する。</p> <p>(3) いじめ防止対策推進委員会、服務倫理委員会を設置し生徒の安全に対する意識を向上させる。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 指導者をはじめとする多くの先生方から稽古をいただき、技術の上達をはかる。</p> <p>(2) 道場や部室などを公共の空間として認識させ、自ら進んで整理・整頓・清掃を行えるように指導する。</p> <p>(3) 昇段審査前には外部の指導者のもと「日本剣道形」の稽古および、筆記試験に向けた勉強会を設定する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 試合の後はミーティングを開き、成果や課題を全員で話し合い、指導・支援の改善に努める。</p> <p>(2) 教員自ら生徒と剣を交え、共に汗を流すことで、教員とのコミュニケーションの取りやすい環境を作る。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) PTA総会、部活動保護者会などで、各部における活動目標について説明する機会を設ける。</p> <p>(2) 休日練習の際には保護者も参加できる機会を作り、日ごろの活動状況を理解してもらう。その際には、顧問や外部指導者との情報交換ができるよう配慮する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 初心者向けの基礎的な指導は、有段者の生徒を中心に行い、より実践的な技術の指導については高段者の外部指導者が元立ちとなって、個別に対応する。</p> <p>(2) 試合を撮影した動画などを用いてミーティングを行い、各々が重点的に練習すべき箇所を指摘し合い、日々の稽古に反映させる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問と打ち合わせを行い、それぞれの部員の学校生活における状況などを報告する。</p> <p>(2) 外部指導者の所属する内郷高校剣道部OB会に出席し、大勢の先生方から剣術指導をするうえでの助言をいただく。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動紹介 新入生仮入部		前期中間考査	終業日	始業日	前期期末考査 前期終業式	後期始業日 修学旅行	後期中間考査	終業日	始業日	後期期末考査	卒業式 終業式
各種大会の予定		高体連地区大会	高体連県大会 県総体地区大会	県総体県大会	剣道一級審査会	新人戦地区大会 前期昇段審査会		新人戦県大会	県選抜地区大会	県選抜県大会	後期昇段審査会	
練習試合・遠征等	春季錬成会	小野高校錬成会			夏季強化錬成会 強化合宿 中高合同練習会					元旦稽古会		春季錬成会
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	準備期	充実期	試合期	充実期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	地区大会に備え、練習試合などを実施し、各々の技を磨く。	地区大会、県大会に向けて団体戦の戦い方を中心に練習する。	3年生の引退とともに、スムーズな新体制の移行ができるよう、2年生への引継ぎを行う。	夏季の長時間練習に備え、基本的体力づくりを目指す。打ち込み稽古・追い込み稽古を重点的に行う。	合宿や錬成会を通して、数多くの実践経験を積み、大会・審査会に備える。	昇段審査を受審する生徒は通常の練習のほかに、日本剣道形の指導を指導者から受ける。	出稽古などを実施し、新たな技術を体得できるようにする。技の稽古・掛り稽古を中心に行い、技の切り替えを早くできるようにする。	新人戦県大会に備え、練習試合などで実践経験を積む。	打ち込み稽古・追い込み稽古に重点をおいた基礎体力の向上を目指す。	打ち込み稽古・追い込み稽古に重点をおいた基礎体力の向上を目指す。	昇段審査を受審する生徒は通常の練習のほかに、日本剣道形の指導を指導者から受ける。	部員の一人一人が新入生の指導ができるよう、稽古の方法や理念について学びながら日々の稽古を行う。

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	いわき光洋高校 剣道部	顧問・外部指導者氏名	顧問 志賀久敏 永山浩子 ・ 外部指導者 鈴木順一	電話/FAX	0246-28-0301/ 0246-28-0311	Email	school@iwakikoyo-h.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をおとして、体力や運動技能の向上を図るとともに、協働性を伸ばし、公正さと規律を草草態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自律的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 剣道を通じて、心身の鍛錬を行い、剣道の技術と人間性の向上を目指す。 ア 基本的な生活態度を身につける。 イ 自立した強い意思を身につける。 ウ 協働性を身につける。 エ 文武両道。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 県大会で上位に進みたいと考えている者もいる。多くは剣道の技術・精神の向上を重点に練習に励んでいる。</p> <p>(2) 学習と部活動の両立を図りたいと考えている生徒がほとんどで、審査前などは部全体で学習時間を確保している。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 剣道は「剣の理法の修練による人間形成の道」であり、この理念に基づいて清く正しくたくましい人間としての育成を目指す。</p> <p>(2) 相手を尊重する態度を身につけさせ、練習や試合をした相手に敬意を払い、感謝の気持ちを持つ態度の育成を目指す。</p> <p>(3) 瞬発力、敏捷性、巧緻性などの体力を総合的に高めるとともに、克己心などの精神力を高めることを目指す。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 練習前に部員の体調を把握し、体調不良や怪我を確認し、休養や通院を指示し、疲労回復や健康維持に努める。</p> <p>(2) 活動計画においては、1週間に1日は休養日を設けて疲労蓄積の排除に努めさせる。また、大会直後は休養日として疲労回復に配慮している。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 剣道というスポーツの本質を理解し、常に人格形成と剣道技術の向上を目指した指導を行う。それぞれの能力に応じた指導を行い、剣道の理論に基づいた指導を行う。</p> <p>(2) 日本剣道の「形」を理解させ、稽古でも十分活用できるように指導する。</p> <p>(3) 稽古を行う環境の改善や保健衛生面にも留意した活動ができるよう指導する。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 試合直後は、「振り返りシート」を配布して部全体または各自の成果と反省を記入させ、指導内容・方法の改善に活かしている。</p> <p>(2) 部顧問が部員に意識的に声をかけ問題点などを把握し、外部指導者や保護者と連携して対応している。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 技能習熟の程度に合わせた適切な練習内容、時間、反復練習などを行い、剣道の基礎となる動作や正しい打突を自習させる。間合いの取り方や打突の正確さ、速さなどを重点に気剣体の一致した技が出せるよう「剣の理法」を自習させる。</p> <p>(2) 稽古の中で剣道の礼儀を重んじた行動を心がけさせ、相手を尊重する態度や感謝の気持ち、また自分を律する態度を自習させる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 部顧問と外部指導者の間で指導内容についての打合せを適宜に行い、練習メニューの改善に努めている。</p> <p>(2) 部顧問が外部指導者に、部員の生活状況等の情報を連絡し、指導の参考情報として提供している。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動編成	生徒総会 中間考査	期末考査	終業式 文化祭(公開)	始業式		中間考査 修学旅行 球技大会	期末考査	終業式	始業式	学年末考査	卒業式・終業式
各種大会の予定		県高校体育大会地区予選会	県高校体育大会地区総体	県総体			県新人体育大会地区大会	県新人体育大会	高校選抜優勝大会地区大会	高校選抜優勝大会県大会		
練習試合・遠征等	いわき地区練成会	他校との合同練成会の実施		地区合同練成会	他校との合同練成会の実施	昇段審査会		1級審査会	他校との合同練成会の実施	他校との合同練成会の実施	昇段審査会	県合同練成会他校との合同練成会の実施
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	試合期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 各部員の心技体の充実に向けた練習 地区練成会等を通じた技能向上 新入部員を迎えて、組織力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 大会に向けた心技体を高める練習 大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 	<ul style="list-style-type: none"> 大会に向けた心技体を高める練習 大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎技術の鍛錬、気剣体一致を目指した打突の修練 各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 	<ul style="list-style-type: none"> 新チームとしての課題を見据えた練習 各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 	<ul style="list-style-type: none"> 大会に向けた心技体を高める練習 各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 	<ul style="list-style-type: none"> 大会に向けた心技体を高める練習 大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 昇段審査会に向けた「形」の修得 	<ul style="list-style-type: none"> 大会に向けた心技体を高める練習 大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 	<ul style="list-style-type: none"> 大会に向けた心技体を高める練習 大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 	<ul style="list-style-type: none"> 大会に向けた心技体を高める練習 大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 昇段審査会に向けた「形」の修得 	<ul style="list-style-type: none"> 大会に向けた心技体を高める練習 大会の反省を踏まえ各自の課題解決のための練習 各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎技術の鍛錬、気剣体一致を目指した打突の修練 各自の課題(メンタル面・技術面)を解決するための練習

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立いわき海星高等学校 ヨット部	顧問・外部指導者氏名	佐藤 純一	電話/FAX	080-5572-3663	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動をとおして、体力や運動技能の向上を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。</p> <p>(2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>(1) 高体連大会、国民体育大会に重点を置き、基礎的技術を身につけ進む</p> <p>(2) 各遠征、合宿等で他県選手との交流を図りながら自身の基本的生活を身につける。</p> <p>(3) 準備、片付けの行動は軌道に行う事で練習時間の確保</p> <p>(4) 夢を持てる人材育成</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会で勝ち進めるチームになりたいと考えている部員と運動に親しむことを目的としている部員が混在している。</p> <p>(2) 定期考査等の直前は、学習時間を確保したいと考えている部員が多い。また、家庭環境の影響によりアルバイトを視野に入れた部員もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>(2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 安全を第1に考える(気象予測、自身の体調管理)</p> <p>(2) コミュニケーションをまめにとり、約束を守り信頼関係を深める</p> <p>(3) 技術の向上により自信をつけ、日常生活でも幅を持った行動が出来るように促す。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 公式大会がない場合、週休日のいづれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。</p> <p>(2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。</p> <p>(3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 安全運営のため、気象予報や観天望気を欠かさず行い、その日の活動メニューも変わる場合もある。</p> <p>(2) 基本的には海に出ていろいろなパターンで練習を重ねていく。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述したノートに指導者が目を通し、指導・支援の改善に活かす。</p> <p>(2) 指導スタッフが意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。</p> <p>(2) 年度途中や年度末に、顧問から部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) その生徒に合ったアドバイス、その日の天候にあったポイントを明確に外部指導者と打ち合わせをし、その日の練習を行い、練習後には、反省課題をノートに書き読み上げ、その都度アドバイスをし次の練習に備えることを継続する</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。</p> <p>(2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式・始業式 部活動編成	中間考査		期末考査 終業式			中間考査	期末考査	終業式		学年末考査	卒業式 終業式
各種大会の予定			県大会 東北大会	県総合体育大会	全国高校大会	県新人大会	国民体育大会	種目別全日本大会				
練習試合・遠征等		大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	強化合宿	強化合宿	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	大会期間を除き 週末に1日練習 試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	週末に隔週で1日 練習試合を設定	強化合宿遠征
シーズン区分)	準備期	準備期	試合期	試合期	充実期	調整期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	準備期
活動内容・ねらい	器具の準備と効率化を考え整理をする。新入部員の指導と現役のスキルアップと目標の明確化を図る	各練習会で風や天候に合わせて、帆走練習及びミーティング、基礎体力トレーニングを行う 新入部員は、ヨットレースの理解を図る	実践レースでの反省、課題を明確にし、その場においてスキルのアップを図る	基礎技術を確認し遠征にむけて準備をする ジュニアヨット教室など各種イベントへの参加協力	実践練習を主に県外からも外部講師を招き、県外有力選手と実践練習を行い、親睦を図る	国体前における調整、全体的なレベルアップを図る	レースにむけて、全体的なスキルアップを図る。 現地海上の風や潮流のソフトパターンをブリーフィングし実践でのシュミレーションを繰り返す	特に風が強まっていくシーズンなので、特に安全面を中止を注ぎながら強風域の中を安定した走りが出来ることを目指す	有酸素系トレーニングを週2回行い筋力の増加を図る 平日の日暮れが早くなるため、艇の準備、片付けをより早く行うことにより練習時間の確保、自身の俊敏性を身につける	冬季練習により強い精神力を身につけ、フィジカル面も強化を継続する	冬季練習により強い精神力を身につけ、フィジカル面も強化を継続する	強風域のレースに標準を置き大会へ参加する。来期へむけ、課題を再確認する

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立いわき海星高等学校・柔道部	顧問・外部指導者氏名	遊佐善憲	電話/FAX	090-5406-2819	Email	
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
学校全体の活動目標 (1) 部活動を通して、健全な心身の育成を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、規律と公共心を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 部員のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的・自発的な活動を促進する。		各部の活動目標 (1) 柔道部の活動を通して、健全な心身の育成を図るとともに、他者を尊重し協同する精神、規律と公共心を尊ぶ態度や克己心を培い、豊かな人間性を育む基礎を養う。 (2) 男子部員、女子部員一人一人のニーズを十分に踏まえ、活動目標や指導の方針を示すとともに、指導者と部員及び、部員相互の望ましい人間関係に基づく自主的、自発的な活動を促進する。			部員のニーズや要望・意見 (1) 部員数の減少により、練習時間と学校の補習や実習が重なった時に、乱取り等の練習が効果的にできない場合がある。 (2) バスで通学している部員が複数いるため、バスの時刻に間に合うように練習を終了できるよう希望している。		
学校全体の指導方針 (1) 各部とも活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しをもって活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。		各部の指導方針 (1) 柔道部の活動目標や指導の方針及び年間の活動内容を明確に示すことで、部員が中長期的見通しを持って活動に取り組めるようにする。 (2) 部員とのコミュニケーションを密に図りながら、科学的な指導内容や指導法を積極的に活用し、発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導を展開する。			部員の心身の疲労回復への配慮 (1) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休業日とする。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休業日とする。 (2) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努める。		
事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制 (1) 定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握する。 (2) AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応へ備えを万全にする。 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備する。		各部の指導内容 (1) 各上位大会への出場、入賞を目指し、立技、寝技の基本的な技能を習得させると同時に、科学的根拠に基づいた筋力トレーニングを実施し、健全な心身の育成を図る。 (2) 練習相手を確認し、効果的な練習を実施するために、他校との合同練習や合宿等の機会を適宜設けられるようにし、視野を広く持った豊かな人間性を育成出来るようにする。			部員とのコミュニケーションの方策 (1) 顧問と副顧問との連携を密にし、複数の教員で部員との対話を積極的に図るようにし、部員に対する共通理解を深める。 (2) クラス担任とも連携し、部内に留まらず普段の部員の学習の状況や学校生活の早期把握と早期対応に努める。		
保護者等への説明機会 (1) 年度始めのPTA総会や部活動保護者会において、校長や顧問から活動目標等について説明する機会を設定する。 (2) 学校のホームページや生徒会誌等を活用して、部活動の運営状況や活動実績等について説明する機会を設定する。		各部の指導方法 (1) 打ち込み、乱取りを通して立技、寝技の基本的な技能を顧問、コーチの適切な助言の下に身につけさせると同時に、綱やベンチプレス等の器具を用い、科学的根拠に基づいた体幹、筋力トレーニングを施し、健全な心身の育成を図る。 (2) 近隣の学校と連携し、合同練習や合宿等を実施し、多人数で効果的な練習が出来るよう配慮することで、他者を尊重し、規律と公共心を尊ぶ態度を養う。			指導スタッフ間の連携策 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をする。 (2) 外部指導者から科学的根拠や豊富な経験に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手する。		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学校行事や定期 考査等の予定	入学式・始業式 部活動編成	中間考査	修学旅行	期末考査 終業式			中間考査	期末考査	終業式		学年末考査	卒業式 終業式	
各種大会の予定		地区高校体育大会 地区ジュニア大会	県高校体育大会 地区総合体育大会 県ジュニア大会	県総合体育大会	全国高校大会	全日本ジュニア大会 地区新人大会	国民体育大会	県新人大会	全国高校選手権県 予選	東北選手権	県選手権大会	全国高校選手権	
練習試合・遠征等	遠征合宿 1泊2日	大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定	大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定	大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定	夏季遠征 2泊3日	大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定	大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定	大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定	大会期間を除き 週末に1日合同練習 を設定	週末に隔週で1日 合同練習を設定	週末に隔週で1日 合同練習を設定	週末に隔週で1日 合同練習を設定	
シーズン区分)	充実期	試合期	試合期	試合期	充実期	試合期	充実期	試合期	試合期	準備期	準備期	準備期	
活動内容・ねらい	・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・大会をとおして見えてきたチーム課題の解決に向けたトレーニング ・各自で高めたい技能の習得に向けたトレーニング	・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング	・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング	・体幹、全身の筋力の向上を目指したトレーニング ・寝技、立技の技能を高めるためのトレーニング

事業計画書(様式2)

学校名・部活動名	福島県立好間高等学校 柔道部	顧問・外部指導者氏名	顧問：長谷川勝 外部コーチ：樋山勝美	電話/FAX	0246-36-2203 / 0246-36-2241	Email	assist@yoshima-h.fks.ed.jp
学校全体に関わって		各部の計画			部員の現状・配慮事項等		
<p>学校全体の活動目標</p> <p>(1) 部活動を通じて、心・技・体の向上を図り、他者を尊重し協同する精神、公平さと規律を重んじる態度や克己心を育成し、豊かな人間形成を育む。</p> <p>(2) 部員や保護者のニーズを踏まえ、活動方針等を示すとともに、自校の活性化に寄与する。</p>		<p>各部の活動目標</p> <p>部活動を通じて、心と体を鍛え、技術の向上を図り、豊で社会に適應できる能力や態度を養うことができるよう活動する。</p>			<p>部員のニーズや要望・意見</p> <p>(1) 大会を勝ち進み、全国大会出場を果たしたいと考えている。</p> <p>(2) 個々の技術の向上のために、自主練習に励んでいる生徒もいる。</p>		
<p>学校全体の指導方針</p> <p>(1) 活動目標や指導方針を明確に示すことで、それぞれの部員が短期・中期・長期目標達成のため、意欲的かつ主体的に活動できるようにする。</p> <p>(2) 部員や保護者のニーズに応えるため、科学的トレーニングや発達段階に即した指導法等を研究し、バランスのとれた指導を展開する。</p>		<p>各部の指導方針</p> <p>(1) 部員それぞれが設定した目標を集約し、その集約したもから部の目標を決め、決まった目標の達成のために部員が一丸となって取り組めるようにする。</p> <p>(2) 各部員の身体能力を考慮し、個々にあった技術の向上に努める。</p>			<p>部員の心身の疲労回復への配慮</p> <p>(1) 休養日を定期的に週1日設けている。</p> <p>(2) 怪我や体調不良を新入る部員には、医療機関との連携を図り、早期発見・早期治療に努めている。</p>		
<p>事故防止への対策と不適切な指導等に対するチェック体制</p> <p>(1) 定期的な活動場所、用具等の点検、部員の健康状態の把握を行う。</p> <p>(2) AEDや救命救急法の校内研修等を実施し、緊急時の対応を十分に行う。</p> <p>(3) 体罰、セクハラ、いじめ等を防止するため、顧問や他の教員への相談窓口を設置し、生徒・保護者からの相談機能を円滑にする。</p>		<p>各部の指導内容</p> <p>(1) 活動場所の安全を確認と、部員一人一人の心身の状態を常に把握しながら指導する。</p> <p>(2) 事故防止を最優先に考え、基礎的な体力向上に日々努める。</p> <p>(3) 技術の向上のため、反復練習を継続的に実施させる。</p>			<p>部員とのコミュニケーションの方策</p> <p>(1) 練習や大会内容を振り返り、個々の弱点や課題等を分析し、その後の練習等を通じて改善できるよう支援している。</p> <p>(2) 毎日、指導者が道場へ行き、練習の様子から部員の状況を確認し、指導上の問題等への早期把握と早期対応に努めている。</p>		
<p>保護者等への説明機会</p> <p>(1) PTA総会等を活用し、校長から教育目標及び活動目標等について保護者へ周知する。</p> <p>(2) 各部毎に保護者会等を年度初めに開催し、顧問から年間を見据えた活動計画及び方針等を周知する。</p>		<p>各部の指導方法</p> <p>(1) 技術の向上を図るため、身体の強さ、柔軟性、俊敏性等を考慮しながら、個々にあった技を選択し、反復練習しながらその技を習得させる。</p> <p>(2) 個人スポーツであるが、仲間を尊重する意識を持って練習に取り組ませる。</p>			<p>指導スタッフ間の連携策</p> <p>(1) 外部コーチと顧問は指導日にとらわれず緊密な連携を図っている。特に、柔道以外の学校生活等も含め情報交換を行い、同じ目線で指導を行っている。</p> <p>(2) 顧問は外部コーチとの連携により、新しい情報を入手することが可能となり、部員の体力・技術力の向上に繋がっている。</p>		

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事や定期考査等の予定	入学式 始業式	中間考査	期末考査	球技大会 終業式	始業式	中間考査	修学旅行	期末考査	終業式	始業式	期末考査	卒業式 終業式
各種大会の予定		地区大会 連盟主催大会	県大会 連盟主催大会	連盟主催大会	インターハイ	新人地区大会		新人県大会	選手権大会	東北大会		全国選手権大会
練習試合・遠征等	週末に1日練習	連休を利用し遠征 試合	大会期間を除き週末に1日練習	夏季休業を利用し 遠征試合	夏季休業を利用し 遠征試合	大会期間を除き週末に1日練習	週末に1日練習	大会期間を除き週末に1日練習	大会期間を除き週末に1日練習	冬季休業を利用し 遠征練習	週末に1日練習	春季休業を利用し 遠征試合
シーズン区分)	準備期	充実期	試合期	試合期	試合期	充実期	充実期	試合期	試合期	充実期	準備期	試合期
活動内容・ねらい	・筋力、持久力等の基礎体力の向上 ・技能の修得 ・基本的動作の修得	・技能修得 ・応用的動作 ・大会を通じて見えてきた課題の解決	・大会を通じて見えてきた課題の解決	・大会を通じて見えてきた課題の解決	・大会を通じて見えてきた課題の解決	・技能の修得 ・基本動作 ・応用的動作	・技能の修得 ・基本動作 ・応用的動作	大会を通じて見えてきた課題解決 ・技能の修得 ・応用的動作	大会を通じて見えてきた課題解決 ・技能の修得 ・応用的動作	・筋力、持久力等の基礎体力の向上 ・技能の修得 ・基本的動作の修得	・筋力、持久力等の基礎体力の向上 ・技能の修得 ・基本的動作の修得	・筋力、持久力等の基礎体力の向上 ・技能の修得 ・基本的動作の修得